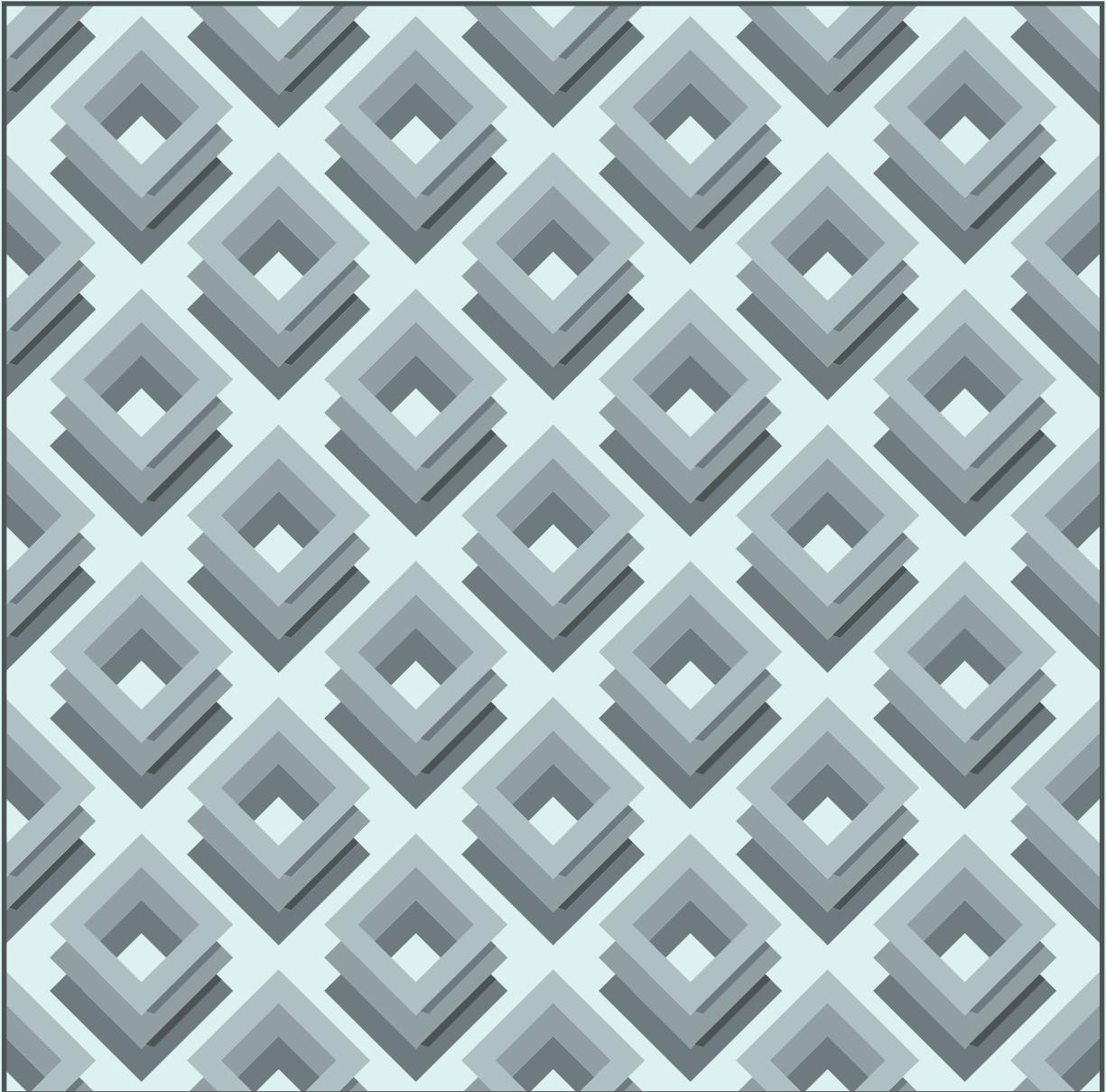

2015年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

独：ドイツ語学科

養(*1)：国際教養学部、スペイン語履修者

済：経済学科

英：英語学科

養(*2)：国際教養学部、中国語履修者

営：経営学科

仏：フランス語学科

養(*3)：国際教養学部、韓国語履修者

環：国際環境経済学科

交：交流文化学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08～12年度……2008～2012年度入学者

07年度以前……2007年度以前入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

※「全学総合講座」および一部の科目は、記載方法が異なる場合があります。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③集中講義

集中講義を伴うスポーツ・レクリエーション科目は上・下両段に記載してあります。

開講学期に注意してください。

— 総 合 目 次 —

2009 年度以降入学者用目次	-----2
外国語学部共通科目（2006 年度以降入学者用）	-----6
担当者別授業内容	-----7

フランス語学科 授業科目(2009年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

09年度以降入学者用

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	7
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	7
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ	江花 輝昭	春	1	1	全	8
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ	江花 輝昭	秋	1	1	全	8
フランス語Ⅰ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	9
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	9
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	春	1	1	全	10
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ	山崎 夏絵	秋	1	1	全	10
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	11
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰ(LL)	授業時間割表を参照してください。	春	1	1	全	12
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	12
フランス語Ⅲ(文法)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	13
フランス語Ⅳ(文法)		秋	1	2	全	13
フランス語Ⅲ(講読)	山崎 夏絵	春	1	2	全	14
フランス語Ⅳ(講読)	山崎 夏絵	秋	1	2	全	14
フランス語Ⅲ(講読)	平田 周	春	1	2	全	15
フランス語Ⅳ(講読)	平田 周	秋	1	2	全	15
フランス語Ⅲ(講読)	竹内 久雄	春	1	2	全	16
フランス語Ⅳ(講読)	竹内 久雄	秋	1	2	全	16
フランス語Ⅲ(講読)	横地 卓哉	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(講読)	横地 卓哉	秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	野澤 丈二	春	1	2	全	18
フランス語Ⅳ(講読)	野澤 丈二	秋	1	2	全	18
フランス語Ⅲ(講読)	小倉 博行	春	1	2	全	19
フランス語Ⅳ(講読)	小倉 博行	秋	1	2	全	19
フランス語Ⅲ(総合)	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	20
フランス語Ⅳ(総合)		秋	1	2	全	20
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	長谷川 久礼満	春	1	2	全	21
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	長谷川 久礼満	秋	1	2	全	21
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	授業時間割表を参照してください。	春	1	2	全	22
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ		秋	1	2	全	22
フランス語Ⅲ(構文)	田中 成和	春	1	2	全	23
フランス語Ⅳ(構文)	田中 成和	秋	1	2	全	23
フランス語Ⅲ(構文)	青木 三郎	春	1	2	全	24
フランス語Ⅳ(構文)	青木 三郎	秋	1	2	全	24
フランス語Ⅲ(構文)	大木 勲	春	1	2	全	25
フランス語Ⅳ(構文)	大木 勲	秋	1	2	全	25
フランス語Ⅲ(構文)	常盤 僚子	春	1	2	全	26
フランス語Ⅳ(構文)	常盤 僚子	秋	1	2	全	26
フランス語Ⅲ(構文)	藤田 朋久	春	1	2	全	27
フランス語Ⅳ(構文)	藤田 朋久	秋	1	2	全	27
フランス語Ⅲ(構文)	井上 美穂	春	1	2	全	28
フランス語Ⅳ(構文)	井上 美穂	秋	1	2	全	28

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	谷口 亜沙子	春	木1	2	1		29
フランス芸術文化入門Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	木1	2	1		29
フランス現代社会入門Ⅰ	中村 公子	春	水3	2	1		30
フランス現代社会入門Ⅱ	中村 公子	秋	水3	2	1		30

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	31
総合フランス語Ⅱ		秋		2	3	全	31
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジエス	春	月2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジエス	秋	月2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火1	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火1	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅰ	B. ファイフ	春	火3	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅱ	B. ファイフ	秋	火3	2	3		34
フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		35
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木2	2	3		36
フランス語文章表現法Ⅰ	C. ルメタ	春	金2	2	3		37
フランス語文章表現法Ⅱ	C. ルメタ	秋	金2	2	3		37
フランス語会話Ⅰ	B. ファイフ	春	火2	2	3		38
フランス語会話Ⅱ	B. ファイフ	秋	火2	2	3		38
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	水2	2	3		39
フランス語会話Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	水2	2	3		39
フランス語会話Ⅰ	R. ブレッフュエル	春	木3	2	3		40
フランス語会話Ⅱ	R. ブレッフュエル	秋	木3	2	3		40
フランス語会話Ⅰ	J. ファヴロ	春	金2	2	3		41
フランス語会話Ⅱ	J. ファヴロ	秋	金2	2	3		41
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジエス	春	月3	2	3		42
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジエス	秋	月3	2	3		42
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木3	2	3		43
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木3	2	3		43

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	2		44
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	2		44
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	火4	2	2		45
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	火4	2	2		45
マスメディアのフランス語Ⅰ	廣田 愛理	春	月3	2	3		46
マスメディアのフランス語Ⅱ	福田 美雪	秋	月3	2	3		46
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	青木 三郎	春	金3	2	3		47
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	青木 三郎	秋	金3	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		48
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	3		49
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	木2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	木2	2	3		50
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	野澤 督	春	木4	2	3		51
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	野澤 督	秋	木4	2	3		51

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランスの美術Ⅰ	阿部 明日香	春	水1	2	2	交	52
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	2	交	52
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木2	2	2	交	53
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木2	2	2	交	53
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	火3	2	3		54
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	火3	2	3		54
フランス文学史Ⅰ	湯浅 博雄	春	月3	2	2		55
フランス文学史Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月3	2	2		55
フランスの文学Ⅰ【2012年度以前入学者】	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		56
フランス語圏の文学Ⅰ【2013年度以降入学者】	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		56
フランスの文学Ⅱ【2012年度以前入学者】	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		56
フランス語圏の文学Ⅱ【2013年度以降入学者】	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		56
フランス芸術文化各論Ⅰ	湯浅 博雄	春	水2	2	3		57
フランス芸術文化各論Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水2	2	3		57
フランス芸術文化各論Ⅰ	福田 美雪	春	金2	2	3		58
フランス芸術文化各論Ⅱ	福田 美雪	秋	金2	2	3		58
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	月2	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	月2	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅰ	阿部 明日香	春	月3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	月3	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火4	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火4	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	水1	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	水1	2	3		62
フランス芸術文化講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	水4	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	水4	2	3		63
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅱ	M. ミズバヤシ	秋	木1	2	3		64
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	木2	2	3		65
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	木2	2	3		65

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	火3	2	3		66
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	火3	2	3		66
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	2		67
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	2		67
フランスの政治経済Ⅰ	平田 周	春	月2	2	2	交	68
フランスの政治経済Ⅱ	平田 周	秋	月2	2	2	交	68
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	木2	2	2	交	69
フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	火2	2	3		70
フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	火2	2	3		70
現代フランス論Ⅰ【2012年度以前入学者】	平田 周	春	月3	2	2		71
フランス語圏の現代社会Ⅰ【2013年度以降入学者】	平田 周	春	月3	2	2		71
現代フランス論Ⅱ【2012年度以前入学者】	平田 周	秋	月3	2	2		71
フランス語圏の現代社会Ⅱ【2013年度以降入学者】	平田 周	秋	月3	2	2		71
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	水1	2	3		72
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	水1	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	月2	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅰ	湯浅 博雄	春	月4	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅱ	湯浅 博雄	秋	月4	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	火2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	水2	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	水2	2	3		76
フランス現代社会講読Ⅰ	横地 卓哉	春	木1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅱ	横地 卓哉	秋	木1	2	3		77
フランス現代社会講読Ⅰ	津崎 良典	春	木4	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅱ	津崎 良典	秋	木4	2	3		78
フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	金3	2	3		79
フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	金3	2	3		79

交流文化論(09年度以降入学者)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	81
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	82
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	水2	2	2	交・養・経・法	83
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	84
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	85
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	86
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	87
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	88
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	89
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	90
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義(写真とツーリズムの交流文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論))【2013 年度以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】 交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者以降】	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	96

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	水本 義彦	春	水3	2	1	養・経・法	97
総合講座	水本 義彦	秋	水3	2	1	養・経・法	97
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	98
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	98
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	99
(入門)情報科学各論	各担当教員						100~102
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						103~107
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						108~109
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	110
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	110
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	111
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	111

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

フランス語学科シラバス

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回 (1 コマずつ)、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション・音と綴り 2. 基本的な動詞の活用 3. 名詞・冠詞・形容詞 4. 疑問文 5. 否定文 6. 指示形容詞・所有形容詞・数形容詞 7. 直接法現在の活用 1 8. 直接法現在の活用 2 9. 直接法現在の活用 3 10. 命令法 11. 疑問詞 12. 近接未来と近接過去 13. 半過去 14. 複合過去 15. まとめ <p>※クラスによって使用教材と進度が違うため、各回の内容は、ここにあげた項目と異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員から指示があります。		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1 年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週 2 回 (1 コマずつ)、既修クラスは週 1 回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 単純未来 2. 大過去・前未来 3. 代名詞 1 4. 関係代名詞 1 5. 強調構文・感嘆文 6. 比較構文 7. 能動態と受動態 8. 代名動詞 9. 非人称構文・不定詞構文 10. ジェロンディフ 11. 代名詞 2 12. 関係代名詞 2・関係副詞 13. 条件法 14. 接続法 15. まとめ <p>※クラスによって使用教材と進度が違うため、各回の内容は、ここに挙げた項目と異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員から指示があります。		平常点と学期末試験	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 I (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。</p> <p>春学期は、Pierre Gripari が子ども向けに書いた『ランゲンドルフの城』 <i>Le Château de Langendorf</i> その他を読みます。Gripari 独特の皮肉な目と深い洞察、巧みな話術が楽しめる作品です。</p> <p>授業ではあらかじめ担当を決めることはしないので、全員にその日の分の予習をしてきてもらいます。また、テキスト中に出てくる表現を記憶してもらうための小テストも行います。</p>		<p>1. 授業概要の説明、テキストの紹介</p> <p>2～15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pierre Gripari 著『ランゲンドルフの城』(朝日出版社、1993年)		平常点 (授業への参加度、小テスト) および学期末試験の成績を総合的に勘案して評価。平常点と試験成績をどのように按分するかは試験の出来具合を見てから決定する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語 II (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (購読) (既修クラスのみ履修)	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業目的、授業概要は春学期と同じです。</p> <p>秋学期では、『中国の話』その他を読みます。</p>		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pierre Gripari 著『ランゲンドルフの城』(朝日出版社、1993年)		平常点 (授業への参加度、小テスト) および学期末試験の成績を総合的に勘案して評価。平常点と試験成績をどのように按分するかは試験の出来具合を見てから決定する。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 Ia (総合)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 1</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. Leçon 0</td> <td>Dossiers 1-Leçon 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 2</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 3</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 4</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossiers 2-Leçon 5</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossiers 2-Leçon 6</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossiers 2-Leçon 7</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossiers 2-Leçon 8</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers 3-Leçon 9</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers 3-Leçon 10</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers-3 Leçon 11</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>Dossiers 3-Leçon 12</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. Leçon 0	Dossiers 1-Leçon 1	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 2	3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 3	4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 4	5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 5	7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 6	8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 7	9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 8	10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 9	12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 10	13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers-3 Leçon 11	14. まとめ	Dossiers 3-Leçon 12	15. まとめ	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. Leçon 0	Dossiers 1-Leçon 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 2																																		
3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 3																																		
4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 4																																		
5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																		
6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 5																																		
7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 6																																		
8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 7																																		
9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 8																																		
10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																		
11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 9																																		
12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 10																																		
13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers-3 Leçon 11																																		
14. まとめ	Dossiers 3-Leçon 12																																		
15. まとめ	Révision																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Totem 2</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 1</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. 春学期の復習</td> <td>Dossiers 4-Leçon 13</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 14</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 15</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 16</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 17</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 18</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 19</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 20</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 21</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 22</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 23</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>Dossiers 6-Leçon 24</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13	2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14	3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15	4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16	5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17	7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18	8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19	9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20	10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21	12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22	13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23	14. まとめ	Dossiers 6-Leçon 24	15. まとめ	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13																																		
2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14																																		
3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15																																		
4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 16																																		
5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision																																		
6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17																																		
7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18																																		
8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19																																		
9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20																																		
10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision																																		
11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21																																		
12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22																																		
13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23																																		
14. まとめ	Dossiers 6-Leçon 24																																		
15. まとめ	Révision																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Totem 2</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標</p> <p>1.各回のテーマに関連した語彙の習得</p> <p>2.自然な会話のスピードに慣れる</p> <p>授業の概要</p> <p>各テーマについてそれぞれ3種類の会話文の聞き取り練習を行います。クラス全体での学習の後、個人学習の時間を設けます。音声教材は持ち帰ることができますので、USBメモリーを持参して下さい。</p>		<p>各回のテーマ</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. organiser sa journée(1)</p> <p>3. organiser sa journée(2)</p> <p>4. faire des choix(1)</p> <p>5. faire des choix(2)</p> <p>6. garder la forme(1)</p> <p>7. garder la forme(2)</p> <p>8. 3つのテーマについてまとめと小テスト</p> <p>9. louer un appartement(1)</p> <p>10. louer un appartement(2)</p> <p>11. déménager(1)</p> <p>12. déménager(2)</p> <p>13. s'installer(1)</p> <p>14. s'installer(2)</p> <p>15. 3つのテーマについてまとめと小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		授業中に行う小テストと学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標</p> <p>1.各回のテーマに関連した語彙の習得</p> <p>2.ヒアリング能力の向上</p> <p>授業の概要</p> <p>各テーマについてそれぞれ3種類の会話文の聞き取り練習を行います。クラス全体での学習の後、個人学習の時間を設けます。音声教材は持ち帰ることができますので、USBメモリーを持参して下さい。</p>		<p>各回のテーマ</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. partager un repas(1)</p> <p>3. partager un repas(2)</p> <p>4. faire les courses(1)</p> <p>5. faire les courses(2)</p> <p>6. faire les magasins(1)</p> <p>7. faire les magasins(2)</p> <p>8. 3つのテーマについてまとめと小テスト</p> <p>9. découvrir la ville(1)</p> <p>10. découvrir la ville(2)</p> <p>11. voyager(1)</p> <p>12. voyager(2)</p> <p>13. aller en vacances(1)</p> <p>14. aller en vacances(2)</p> <p>15. 3つのテーマについてまとめと小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		授業中に行う小テストと学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Amical 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Leçon 0 2. Unité 1-Leçon 1~2 3. Unité 1-Leçon 1~2 4. Unité 1-Leçon 1~2 5. Unité 1-Leçon 3~4 6. Unité 1-Leçon 3~4 7. Unité 1-Leçon 3~4 8. Unité 2-Leçon 5~6 9. Unité 2-Leçon 5~6 10. Unité 2-Leçon 5~6 11. Unité 2-Leçon 7~8 12. Unité 2-Leçon 7~8 13. Unité 2-Leçon 7~8 14. まとめ 15. まとめ <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 1</i>		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Amical 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の復習 2. Unité 3-Leçon 9~10 3. Unité 3-Leçon 9~10 4. Unité 3-Leçon 9~10 5. Unité 3-Leçon 11~12 6. Unité 3-Leçon 11~12 7. Unité 3-Leçon 11~12 8. Unité 4-Leçon 13~14 9. Unité 4-Leçon 13~14 10. Unité 4-Leçon 13~14 11. Unité 4-Leçon 15~16 12. Unité 4-Leçon 15~16 13. Unité 4-Leçon 15~16 14. まとめ 15. まとめ <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 1</i>		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Totem 2</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 1</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. Leçon 0</td> <td>Dossiers 1-Leçon 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 2</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 3</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 1-Leçon 1~2</td> <td>Dossiers 1-Leçon 4</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossiers 2- Leçon 5</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 1-Leçon 3~4</td> <td>Dossiers 2-Leçon 6</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossiers 2-Leçon 7</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Dossiers 2-Leçon 8</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 2-Leçon 5~6</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers 3-Leçon 9</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers 3-Leçon 10</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 2-Leçon 7~8</td> <td>Dossiers-3 Leçon 11</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>Dossiers 3-Leçon 12</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. Leçon 0	Dossiers 1-Leçon 1	2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 2	3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 3	4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 4	5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision	6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2- Leçon 5	7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 6	8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 7	9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 8	10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision	11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 9	12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 10	13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers-3 Leçon 11	14. まとめ	Dossiers 3-Leçon 12	15. まとめ	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. Leçon 0	Dossiers 1-Leçon 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 2																																		
3. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 3																																		
4. Unité 1-Leçon 1~2	Dossiers 1-Leçon 4																																		
5. Unité 1-Leçon 3~4	Révision																																		
6. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2- Leçon 5																																		
7. Unité 1-Leçon 3~4	Dossiers 2-Leçon 6																																		
8. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 7																																		
9. Unité 2-Leçon 5~6	Dossiers 2-Leçon 8																																		
10. Unité 2-Leçon 5~6	Révision																																		
11. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 9																																		
12. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers 3-Leçon 10																																		
13. Unité 2-Leçon 7~8	Dossiers-3 Leçon 11																																		
14. まとめ	Dossiers 3-Leçon 12																																		
15. まとめ	Révision																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス : <i>Amical 1</i> 既修クラス : <i>Totem 2</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Totem 2</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 1</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Totem 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. 春学期の復習</td> <td>Dossiers 4-Leçon 13</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 14</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4-Leçon 15</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 3-Leçon 9~10</td> <td>Dossiers 4- Leçon 16</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 17</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 3-Leçon 11~12</td> <td>Dossiers 5-Leçon 18</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 19</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Dossiers 5-Leçon 20</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 4-Leçon 13~14</td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 21</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 22</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 4-Leçon 15~16</td> <td>Dossiers 6-Leçon 23</td> </tr> <tr> <td>14. まとめ</td> <td>Dossiers 6-Leçon 24</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td>Révision</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>	1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13	2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14	3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15	4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4- Leçon 16	5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision	6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17	7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18	8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19	9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20	10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision	11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21	12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22	13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23	14. まとめ	Dossiers 6-Leçon 24	15. まとめ	Révision
<i>Amical 1</i>	<i>Totem 2</i>																																		
1. 春学期の復習	Dossiers 4-Leçon 13																																		
2. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 14																																		
3. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4-Leçon 15																																		
4. Unité 3-Leçon 9~10	Dossiers 4- Leçon 16																																		
5. Unité 3-Leçon 11~12	Révision																																		
6. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 17																																		
7. Unité 3-Leçon 11~12	Dossiers 5-Leçon 18																																		
8. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 19																																		
9. Unité 4-Leçon 13~14	Dossiers 5-Leçon 20																																		
10. Unité 4-Leçon 13~14	Révision																																		
11. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 21																																		
12. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 22																																		
13. Unité 4-Leçon 15~16	Dossiers 6-Leçon 23																																		
14. まとめ	Dossiers 6-Leçon 24																																		
15. まとめ	Révision																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス : <i>Amical 1</i> 既修クラス : <i>Totem 2</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎フランス語の初級文法（文法I, II）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かして、正しいフランス語を習得することを目的とします。</p> <p>授業で使用する教材および進め方などについては、クラスの担当教員から具体的な指示・説明があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 名詞の性と数 2. 形容詞のはたらき 3. 冠詞の使い方 4. 指示形容詞と所有形容詞 5. 疑問形容詞 6. 不定形容詞 7. 分量を表す表現 8. 人称代名詞 9. 再帰代名詞・代名動詞 10. 中性代名詞 11. 指示代名詞 12. 不定代名詞 13. 関係代名詞 14. 否定の表現 15. 直接話法と間接話法 <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容は、ここにあげた項目と異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員から指示があります。		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎フランス語の初級文法（文法I, II）を踏まえて、その内容を発展させたより詳細な文法を学びます。実際の言葉の表現の中で文法を活かし、正しいフランス語を習得することを目的とします。</p> <p>授業で使用する教材および進め方などについては、クラスの担当教員から具体的な指示・説明があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の法と時制 2. 直説法現在・複合過去・半過去・大過去（1） 3. 直説法現在・複合過去・半過去・大過去（2） 4. 直説法単純過去・前過去・重複合過去 5. 直接法単純未来・前未来 6. 条件法現在 7. 条件法過去 8. 接続法現在 9. 接続法過去・過去 10. 接続法半過去・大過去 11. 命令法 12. 不定法 13. 現在分詞・ジェロンディフ 14. 過去分詞 15. まとめ <p>*クラスによって使用教材と進度が異なるため、各回の内容は、ここにあげた項目と異なることがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当教員から指示があります。		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を学習する外国人のために書かれたテキストを使用します。毎回フランスの文化や社会に関する短いテキストを読みながら、文法、語彙についても学習します。1回の授業で全員に1~2回発表の順番が回ってきますので、必ず毎回予習の上、出席して下さい。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Cafés, bistros et brasseries 3. Cosette a-t-elle existé ? 4. Les animaux du patrimoine culturel français 5. Faut-il emmener les enfants au musée ? 6. Le fabuleux destin de la butte Montmartre 7. L'aventure du Livre de Poche 8. Manger bio ? 9. Jouer au portrait 10. Le français est-il la seule langue parlée en France? 11. L'arbre au Cœur de nos vies 12. Le sel au quotidien 13. Être sportif de haut niveau, ou avoir un métier dans le sport 14. Les jeunes et le tabac 15. Devenir européen 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		学期末試験と授業への参加度	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	山崎 夏絵
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語を学習する外国人のために書かれたテキストを使用します。毎回フランスの文化や社会に関する短いテキストを読みながら、文法、語彙についても学習します。1回の授業で全員に1~2回発表の順番が回ってきますので、必ず毎回予習の上、出席して下さい。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Farida, une jeune algérienne en France 3. M. François, diététicien 4. Le mercredi de Laurence, mère de famille 5. Benoît est 《ado》 6. Jean-Claude, médecin de campagne 7. Christophe ou la passion de la terre 8. François et Catherine, marinières sur les canaux de France 9. Le baccalauréat a fêté ses deux cents ans ! 10. Vous voulez reprendre la bicyclette ? 11. La télévision 12. Le tabagisme passif 13. Le nouveau tourisme 14. La bande dessinée (la BD) 15. Le bruit est-il nuisible ? 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用		学期末試験と授業への参加度	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これまで学んだフランス語文法についての知識を確認しつつ、それをを用いて読解力の向上を図ることがこの授業の目的です。そのためのテキストとして、哲学、文学、歴史学などの辞書を用います (例えば、D. Huisman (dir.), <i>Dictionnaire des philosophes</i>; J. Julliard et M. Winock (dir.), <i>Dictionnaire des intellectuels français: les personnes, les lieux, les moments</i>; Paul Aron, Denis Saint-Jacques et Alain Viala (dir.), <i>Le dictionnaire du littéraire</i>.等)。</p> <p>それぞれの学問分野において取り上げられる人物、作品、考え、事件などを学ぶことを通じて、フランス文化の様々な側面にフランス語で直に触れる機会も兼ねたいと思います。それゆえ、受講者の関心に応じて、ある程度柔軟に読む辞書や項目を選びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方についての説明 2. 哲学・哲学者辞典の項目を読む① 3. 哲学・哲学者辞典の項目を読む② 4. 哲学・哲学者辞典の項目を読む③ 5. 哲学・哲学者辞典の項目を読む④ 6. フランス知識人辞典の項目を読む① 7. フランス知識人辞典の項目を読む② 8. フランス知識人辞典の項目を読む③ 9. フランス知識人辞典の項目を読む④ 10. 文学事典の項目を読む① 11. 文学事典の項目を読む② 12. 文学事典の項目を読む③ 13. 文学事典の項目を読む④ 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には扱う辞書やその順番など多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。</p>		<p>期末テスト (50%) と授業への積極的な参加 (50%)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これまで学んだフランス語文法についての知識を確認しつつ、それをを用いて読解力の向上を図ることがこの授業の目的です。そのためのテキストとして、哲学、文学、歴史学などの辞書を用います (例えば、D. Huisman (dir.), <i>Dictionnaire des philosophes</i>; J. Julliard et M. Winock (dir.), <i>Dictionnaire des intellectuels français: les personnes, les lieux, les moments</i>; Paul Aron, Denis Saint-Jacques et Alain Viala (dir.), <i>Le dictionnaire du littéraire</i>.等)。</p> <p>必要に応じて、項目のなかで参照されている著作から短いテキストを選んで、読み、知識を深めます。</p> <p>それぞれの学問分野において取り上げられる人物、作品、考え、事件などを学ぶことを通じて、フランス文化の様々な側面にフランス語で直に触れる機会も兼ねたいと思います。それゆえ、受講者の関心に応じて、ある程度柔軟に読む辞書や項目を選びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方についての説明 2. 哲学・哲学者辞典の項目を読む① 3. 哲学・哲学者辞典の項目を読む② 4. 哲学・哲学者辞典の項目を読む③ 5. 関連文献の抜粋を読む 6. フランス知識人辞典の項目を読む① 7. フランス知識人辞典の項目を読む② 8. フランス知識人辞典の項目を読む③ 9. 関連文献の抜粋を読む 10. 文学事典の項目を読む① 11. 文学事典の項目を読む② 12. 文学事典の項目を読む③ 13. 関連文献の抜粋を読む 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には扱う辞書やその順番など多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。</p>		<p>期末テスト (50%) と授業への積極的な参加 (50%)。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる。</p> <p>(2) いろいろな文章を読んでみて自分が興味を持てるジャンルを発見する。</p> <p>(3) 言語を通じてフランス文化の流れ、現代フランス事情を知る。</p> <p>の3つです。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p> <p>1回目の授業で追加的説明を行いますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文法を使って文を読む(1) 2. 文法を使って文を読む(2) 3. 文法を使って文を読む(3) 4. 文法を使って文を読む(4) 5. まとめと復習 6. フランスの風土についての文を読む(1) 7. フランスの風土についての文を読む(2) 8. フランスの歴史についての文を読む(1) 9. フランスの歴史についての文を読む(2) 10. フランスの歴史についての文を読む(3) 11. まとめと復習 12. フランスの現在についての文を読む(1) 13. フランスの現在についての文を読む(2) 14. まとめと復習 15. 総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		評価は、平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春期の続きです。</p> <p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 初級文法の知識をフランス語文を読むことにつなげる。</p> <p>(2) いろいろな文章を読んでみて自分が興味を持てるジャンルを発見する。</p> <p>(3) 言語を通じてフランス文化の流れ、現代フランス事情を知る。</p> <p>の3つです。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p> <p>1回目の授業で追加的説明を行いますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な物語、詩を読む(1) 2. 簡単な物語、詩を読む(2) 3. 簡単な物語、詩を読む(3) 4. 簡単な物語、詩を読む(4) 5. フランスの現在についての文を読む(1) 6. フランスの現在についての文を読む(2) 7. フランスの現在についての文を読む(3) 8. フランスの現在についての文を読む(4) 9. フランスの文化、哲学関連の文を読む(1) 10. フランスの文化、哲学関連の文を読む(2) 11. フランスの文化、哲学関連の文を読む(3) 12. フランスの文化、哲学関連の文を読む(4) 13. フランスの文化、哲学関連の文を読む(5) 14. まとめと復習 15. 総まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		評価は、平常点(クラスの人数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語のテキストに親しもう！</p> <p>「フランス現代社会」・「フランス芸術文化」に関するトピックをやさしいフランス語で書いたテキストをよみます。</p> <p>一緒に声に出してよみ、考えることから始めて、ひとりでよみ、考え、理解できるようになるようになりましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Echec à l'université (1) 3. (2) 4. Le luxe français (1) 5. (2) 6. Le Mont-Saint-Michel (1) 7. (2) 8. L'heure d'été (1) 9. (2) 10. Françafrique (1) 11. (2) 12. La séparation de l'Eglise et de l'Etat (1) 13. (2) 14. Le yoga en France (1) 15. (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A la page, actualités françaises 2015</i> (『時事フランス語 2015年度版』 朝日出版社)</p>		<p>評価は主として毎回の授業をとおしておこないます。 期末試験もおこなう予定。 詳しくはガイダンスのときに説明します。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語のテキストに親しもう！</p> <p>おそらくみなさんも聞いたことがあると思われる物語をよみます。</p> <p>フランス語学習者のために書かれたテキストからフランス語を母語とするひとにむけて書かれたテキストへの橋渡しになればと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. <i>Le petit Chaperon Rouge</i> (1) 3. (2) 4. (3) 5. <i>Cendrillon</i> (1) 6. (2) 7. (3) 8. (4) 9. <i>Le Petit Prince</i> (1) 10. (2) 11. (3) 12. (4) 13. (5) 14. (6) 15. (7) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは担当者が用意します。</p>		<p>評価は主として毎回の授業をとおしておこないます。 期末試験もおこなう予定。 詳しくはガイダンスのときに説明します。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 この授業では、フランス語で書かれたテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>【講義概要】 指定の教科書に沿って、フランスの政治・経済・社会・文化・歴史などについて広く学んでいきます。フランスの新聞や雑誌などからの抜粋も積極的に活用します。</p> <p>使用する教材や授業の進め方については、初回の授業時に改めて詳しい説明を行います。</p>		<p>1: 講義の概要</p> <p>2: 「先生、ありがとう！」 Merci Professeur !</p> <p>3: 「ラ・フォル・ジュルネ」 La Folle Journée</p> <p>4: 「大学に入ったけれど…」 Échec à l'université</p> <p>5: 「新入生いじめ」 Bizutage</p> <p>6: 「メイド・イン・フランス」 <i>Made in France</i></p> <p>7: 「フランスの高級ブランド」 Le luxe français</p> <p>8: 「ル・ルレー」 Le Relais</p> <p>9: 「ルイ 14 世」 Louis XIV</p> <p>10: 「ワーテルロー」 Waterloo</p> <p>11: 「モン・サン・ミシェル」 Le Mont-Saint-Michel</p> <p>12: 「夏時間」 L'heure d'été</p> <p>13: 「女性シェフ」 Les femmes chefs</p> <p>14: 講義のまとめ</p> <p>15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤晴久、ミシェル・サガズ 『時事フランス語 2015 年版』 (朝日出版社 2015)		平常授業における提出物 (30%) 期末試験 (70%)	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	野澤 丈二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 この授業では、フランス語で書かれたテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>【講義概要】 指定の教科書に沿って、フランスの政治・経済・社会・文化・歴史などについて広く学んでいきます。フランスの新聞や雑誌などからの抜粋も積極的に活用します。</p> <p>使用する教材や授業の進め方については、初回の授業時に改めて詳しい説明を行います。</p>		<p>1: 講義の概要</p> <p>2: 「凱旋門賞」 Le Prix de l'Arc de Triomphe</p> <p>3: 「フランサフリック」 Françafrique</p> <p>4: 「政教分離」 La séparation de l'Église et de l'État</p> <p>5: 「ルーブル美術館ランス分館」 Le musée Louvre-Lens</p> <p>6: 「フランスのヨガ」 Le yoga en France</p> <p>7: 「ロキア・トラオレ」 Rokia Traoré</p> <p>8: 「メープルシロップ」 Le sirop d'érable</p> <p>9: 「コリブリ」 COLIBRI</p> <p>10: 「エラスムス計画」 Erasmus</p> <p>11: 「ラングゾー」 L'INALCO</p> <p>12: 「オモパランタリテ」 Homoparentalité</p> <p>13: 「バスク地方」 Le Pays basque</p> <p>14: 講義のまとめ</p> <p>15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤晴久、ミシェル・サガズ 『時事フランス語 2015 年版』 (朝日出版社 2015)		平常授業における提出物 (30%) 期末試験 (70%)	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
初級文法で学んだ知識を生かして、実際のフランス語の文章に慣れ親しんでもらいます。フランス人のカメラマンに関するテキストで、実際に彼らが撮ったものを見ながら、その写真の裏にどのような思いが込められているかを味わいたいと思います。輪読形式になりますので、毎回きちんと予習してきてください。		フランスの最も有名なカメラマンの一人、Robert Doisneau にまつわる文章を読みます。 I 教材プリント配布、ガイダンス。 II 第一段落 III 第二段落 IV 第三段落 V 第四段落 VI 第五段落 VII 第六段落 VIII 第七段落 IX 第八段落 X 第九段落 XI 第十段落 XII 第十一段落 XIII 第十二段落 XIV 第十三段落 XV 第十四段落	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点 (20%)，最終授業時に行なう試験 (80%) で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	小倉 博行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じです。		やはりフランスのカメラマンの中でも著名な Henri Cartier-Bresson にまつわる文章を読みます。 I 教材プリント配布、ガイダンス II 第一段落 III 第二段落 IV 第三段落 V 第四段落 VI 第五段落 VII 第六段落 VIII 第七段落 IX 第八段落 X 第九段落 XI 第十段落 XII 第十一段落 XIII 第十二段落 XIV 第十三段落 XV 第十四段落	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (総合) フランス語 IIa (総合)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Amical 1</i>、既修クラスでは <i>Reflets 1</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 1</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Reflets 1</i></td> </tr> <tr> <td>1. Unité 5-Leçon 17</td> <td>Dossiers 8</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 5-Leçon 17-18</td> <td>Dossiers 8</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 5-Leçon 18</td> <td>Dossiers 8</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 5-Leçon 19</td> <td>Dossiers 9</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 5-Leçon 19</td> <td>Dossiers 9</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 5-Leçon 20</td> <td>Dossiers 9</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 5-Leçon 20</td> <td>Dossiers 10</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Dossiers 10</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 6-Leçon 21</td> <td>Dossiers 10</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 6-Leçon 22</td> <td>Dossiers 11</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 6-Leçon 22</td> <td>Dossiers 11</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 6-Leçon 23</td> <td>Dossiers 11</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 6-Leçon 23</td> <td>Dossiers 12</td> </tr> <tr> <td>14. Unité 6-Leçon 24</td> <td>Dossiers 12</td> </tr> <tr> <td>15. Unité 6-Leçon 24</td> <td>Dossiers 12</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1. Unité 5-Leçon 17	Dossiers 8	2. Unité 5-Leçon 17-18	Dossiers 8	3. Unité 5-Leçon 18	Dossiers 8	4. Unité 5-Leçon 19	Dossiers 9	5. Unité 5-Leçon 19	Dossiers 9	6. Unité 5-Leçon 20	Dossiers 9	7. Unité 5-Leçon 20	Dossiers 10	8. Unité 6-Leçon 21	Dossiers 10	9. Unité 6-Leçon 21	Dossiers 10	10. Unité 6-Leçon 22	Dossiers 11	11. Unité 6-Leçon 22	Dossiers 11	12. Unité 6-Leçon 23	Dossiers 11	13. Unité 6-Leçon 23	Dossiers 12	14. Unité 6-Leçon 24	Dossiers 12	15. Unité 6-Leçon 24	Dossiers 12
<i>Amical 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																		
1. Unité 5-Leçon 17	Dossiers 8																																		
2. Unité 5-Leçon 17-18	Dossiers 8																																		
3. Unité 5-Leçon 18	Dossiers 8																																		
4. Unité 5-Leçon 19	Dossiers 9																																		
5. Unité 5-Leçon 19	Dossiers 9																																		
6. Unité 5-Leçon 20	Dossiers 9																																		
7. Unité 5-Leçon 20	Dossiers 10																																		
8. Unité 6-Leçon 21	Dossiers 10																																		
9. Unité 6-Leçon 21	Dossiers 10																																		
10. Unité 6-Leçon 22	Dossiers 11																																		
11. Unité 6-Leçon 22	Dossiers 11																																		
12. Unité 6-Leçon 23	Dossiers 11																																		
13. Unité 6-Leçon 23	Dossiers 12																																		
14. Unité 6-Leçon 24	Dossiers 12																																		
15. Unité 6-Leçon 24	Dossiers 12																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス： <i>Amical 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (総合) フランス語 IIb (総合)	担当者	各担当教員																																
講義目的、講義概要		授業計画																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Amical 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;"><i>Amical 2</i></td> <td style="text-align: center;"><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1. Unité 1-Leçon 1</td> <td>Dossiers 1</td> </tr> <tr> <td>2. Unité 1-Leçon 1-2</td> <td>Dossiers 1</td> </tr> <tr> <td>3. Unité 1-Leçon 2</td> <td>Dossiers 1</td> </tr> <tr> <td>4. Unité 1-Leçon 3</td> <td>Dossiers 2</td> </tr> <tr> <td>5. Unité 1-Leçon 3</td> <td>Dossiers 2</td> </tr> <tr> <td>6. Unité 1-Leçon 4</td> <td>Dossiers 2</td> </tr> <tr> <td>7. Unité 1-Leçon 4</td> <td>Dossiers 3</td> </tr> <tr> <td>8. Unité 2-Leçon 5</td> <td>Dossiers 3</td> </tr> <tr> <td>9. Unité 2-Leçon 5</td> <td>Dossiers 3</td> </tr> <tr> <td>10. Unité 2-Leçon 6</td> <td>Dossiers 4</td> </tr> <tr> <td>11. Unité 2-Leçon 6</td> <td>Dossiers 4</td> </tr> <tr> <td>12. Unité 2-Leçon 7</td> <td>Dossiers 4</td> </tr> <tr> <td>13. Unité 2-Leçon 7</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>14. Unité 2-Leçon 8</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>15. Unité 2-Leçon 8</td> <td>まとめ</td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>		<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1. Unité 1-Leçon 1	Dossiers 1	2. Unité 1-Leçon 1-2	Dossiers 1	3. Unité 1-Leçon 2	Dossiers 1	4. Unité 1-Leçon 3	Dossiers 2	5. Unité 1-Leçon 3	Dossiers 2	6. Unité 1-Leçon 4	Dossiers 2	7. Unité 1-Leçon 4	Dossiers 3	8. Unité 2-Leçon 5	Dossiers 3	9. Unité 2-Leçon 5	Dossiers 3	10. Unité 2-Leçon 6	Dossiers 4	11. Unité 2-Leçon 6	Dossiers 4	12. Unité 2-Leçon 7	Dossiers 4	13. Unité 2-Leçon 7	まとめ	14. Unité 2-Leçon 8	まとめ	15. Unité 2-Leçon 8	まとめ
<i>Amical 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																		
1. Unité 1-Leçon 1	Dossiers 1																																		
2. Unité 1-Leçon 1-2	Dossiers 1																																		
3. Unité 1-Leçon 2	Dossiers 1																																		
4. Unité 1-Leçon 3	Dossiers 2																																		
5. Unité 1-Leçon 3	Dossiers 2																																		
6. Unité 1-Leçon 4	Dossiers 2																																		
7. Unité 1-Leçon 4	Dossiers 3																																		
8. Unité 2-Leçon 5	Dossiers 3																																		
9. Unité 2-Leçon 5	Dossiers 3																																		
10. Unité 2-Leçon 6	Dossiers 4																																		
11. Unité 2-Leçon 6	Dossiers 4																																		
12. Unité 2-Leçon 7	Dossiers 4																																		
13. Unité 2-Leçon 7	まとめ																																		
14. Unité 2-Leçon 8	まとめ																																		
15. Unité 2-Leçon 8	まとめ																																		
テキスト、参考文献		評価方法																																	
未修クラス： <i>Amical 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		平常点と学期末試験																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIa (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	長谷川 久礼満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： TP(=Travaux Pratiques「演習」)では、受講者が各人のレベルとペースに応じて、様々なメディアにおけるフランス語の表現をもとにした練習問題を解くことで、フランス語のスキルアップを目指します。</p> <p>講義概要： 「演習」の授業であるこの講義では、様々なメディアにおけるフランス語を聴き取る問題、書き取る問題、そして内容の正誤を判断する問題などを受講者には課題として取り組んでもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Travaux Pratiques 1 3. Travaux Pratiques 2、小テスト (1) 4. Travaux Pratiques 3 5. Travaux Pratiques 4 6. Travaux Pratiques 5、小テスト (2) 7. Travaux Pratiques 6 8. Travaux Pratiques 7 9. Travaux Pratiques 8、小テスト (3) 10. Travaux Pratiques 9 11. Travaux Pratiques 1 0 12. Travaux Pratiques 1 1、小テスト (4) 13. Travaux Pratiques 1 2 14. 前期のまとめ 15. まとめテスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教室でプリント配布。 参考文献は授業の際に指示します。</p>		<p>平常点 (授業への参加度) 60% 小テスト 20% 授業内のまとめテスト 20%</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIb (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	長谷川 久礼満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： TP(=Travaux Pratiques「演習」)では、受講者が各人のレベルとペースに応じて、様々なメディアにおけるフランス語の表現をもとにした練習問題を解くことで、フランス語のスキルアップを目指します。</p> <p>講義概要： 「演習」の授業であるこの講義では、様々なメディアにおけるフランス語を聴き取る問題、書き取る問題、そして内容の正誤を判断する問題などを受講者には課題として取り組んでもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Travaux Pratiques 1 3. Travaux Pratiques 2、小テスト (1) 4. Travaux Pratiques 3 5. Travaux Pratiques 4 6. Travaux Pratiques 5、小テスト (2) 7. Travaux Pratiques 6 8. Travaux Pratiques 7 9. Travaux Pratiques 8、小テスト (3) 10. Travaux Pratiques 9 11. Travaux Pratiques 1 0 12. Travaux Pratiques 1 1、小テスト (4) 13. Travaux Pratiques 1 2 14. 後期のまとめ 15. まとめテスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教室でプリント配布。 参考文献は授業の際に指示します。</p>		<p>平常点 (授業への参加度) 60% 小テスト 20% 授業内のまとめテスト 20%</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Amical 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 1</i></p> <p>16. Unité 5-Leçon 17 17. Unité 5-Leçon 17-18 18. Unité 5-Leçon 18 19. Unité 5-Leçon 19 20. Unité 5-Leçon 19 21. Unité 5-Leçon 20 22. Unité 5-Leçon 20 23. Unité 6-Leçon 21 24. Unité 6-Leçon 21 25. Unité 6-Leçon 22 26. Unité 6-Leçon 22 27. Unité 6-Leçon 23 28. Unité 6-Leçon 23 29. Unité 6-Leçon 24 30. Unité 6-Leçon 24</p> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 1</i>		平常点と学期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIb (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Amical 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p><i>Amical 2</i></p> <p>16. Unité 1-Leçon 1 17. Unité 1-Leçon 1-2 18. Unité 1-Leçon 2 19. Unité 1-Leçon 3 20. Unité 1-Leçon 3 21. Unité 1-Leçon 4 22. Unité 1-Leçon 4 23. Unité 2-Leçon 5 24. Unité 2-Leçon 5 25. Unité 2-Leçon 6 26. Unité 2-Leçon 6 27. Unité 2-Leçon 7 28. Unité 2-Leçon 7 29. Unité 2-Leçon 8 30. Unité 2-Leçon 8</p> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Amical 2</i>		平常点と学期末試験	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	田中 成和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は 1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、さまざまなフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて 1 年生で学習した文法項目について復習しつつ、フランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文に至るまでの練習を行います。同時に文の構造を覚える 観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については、担当教員が最初に説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 構文演習 (1) 3 構文演習 (2) 4 構文演習 (3) 5 構文演習 (4) 6 構文演習 (5) 7 構文演習 (6) 8 構文演習 (7) 9 構文演習 (8) 10 構文演習 (9) 11 構文演習 (10) 12 構文演習 (11) 13 構文演習 (12) 14 構文演習 (13) 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田博志／フランク。ヴィラン著『1 から始めるフランス語作文』(白水社、2300 円＋税)		毎回授業の最初に行う小テスト、授業への参加度などを総合して評価します。定期試験は行いません。詳しいことは初回の授業で説明します。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	田中 成和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は 1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、さまざまなフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて 1 年生で学習した文法項目について復習しつつ、フランス語の文の構造を学習します。基本的な構文 学習のために、春学期よりもさらに高度な構文の練習を行います。同時に文の構造を覚える 観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については、担当教員が最初に説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 構文演習 (1) 3 構文演習 (2) 4 構文演習 (3) 5 構文演習 (4) 6 構文演習 (5) 7 構文演習 (6) 8 構文演習 (7) 9 構文演習 (8) 10 構文演習 (9) 11 構文演習 (10) 12 構文演習 (11) 13 構文演習 (12) 14 構文演習 (13) 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田博志／フランク。ヴィラン著『1 から始めるフランス語作文』(白水社、2300 円＋税)		毎回授業の最初に行う小テスト、授業への参加度などを総合して評価します。定期試験は行いません。詳しいことは初回の授業で説明します。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 この授業では1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。</p> <p>概要 基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習を行います。モデル文を示して、その文について受講生自身が自分で考えることが何よりも大切です。そのため、授業では受講生自身が辞書を調べ（どの語や表現が適切か自分自身で判断して）、実際に単語をつなげて文にしていく過程を通して、フランス語の構文の基礎を身に着けるようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語構文の基礎 2. 動詞の活用 3. フランス語自動詞文 I 4. フランス語自動詞文 II 5. フランス語他動詞文 I 6. フランス語他動詞文 II 7. 主語の種類 8. 目的語の種類 I (直接目的語) 9. 目的語の種類 II (間接目的語) 10. 状況補語の種類 11. 状況補語の表現法 12. 疑問文の種類 13. 疑問文の表現法 14. 話し言葉と書き言葉 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石野好一『フランス語基礎練習帳』第三書房		<ol style="list-style-type: none"> (1) 平常授業における参加度 (質問、議論) 25% (2) 課題に対する復習度 (小テスト) 15% (3) 期末試験 (筆記) 60% 	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 この授業では、フランス語IIIに引き続き、1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々な構文の理解と定着を目的とします。3年生で行われる文章表現の授業につなげるための準備段階の授業として、随時、必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながら、フランス語の文の構造を学習することに重点をおきます。</p> <p>概要 秋学期では、基本的な構文力を定着させるために、より複雑で少し長めの構文 (関係代名詞の使用、仮定を表す条件法の文、直接話法と間接話法、等) 練習をとりいれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語構文の基礎 (複文) 2. 文と文のつなぎ I (接続詞) 3. 文と文のつなぎ I (接続詞) 4. 文と文のつなぎ III (接続副詞) 5. 文と文のつなぎ III (接続副詞) 6. 関係代名詞と関係節 I 7. 関係代名詞と関係節 II 8. 原因を表す文の作り方 I 9. 原因を表す文の作り方 II 10. 仮定・条件を表す文の作り方 I 11. 仮定・条件を表す文の作り方 II 12. 直接話法 13. 間接話法 14. 文の種類 (物語文、報道文、説明文、論述文等) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石野好一『フランス語ニュアンス表現練習帳』		<ol style="list-style-type: none"> (1) 平常授業における参加度 (質問、議論) 25% (2) 課題に対する復習度 (小テスト) 15% (3) 期末試験 (筆記) 60% 	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	大木 勲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>初年度に学んだ基礎文法の復習をとおして、簡単な文章作成の力を身につけることが目的となります。</p> <p>フランス語の文章がどのような要素から作られているかを考えることからはじめ、基本的な構文をひとつとおり学習し、フランス語で文章を書くために必要なノウハウを習得します。</p> <p>春学期では、基本となる文型を重点的に扱い、また同時に語彙の充実を図ることによって、会話にもつながる表現能力の向上を目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、フランス語文章の構造について 2. 第1文型／第2文型 3. 第3文型／第4文型 4. 第5文型／第5文型のヴァリエーション 5. 第2、第3文型のヴァリエーション 6. 受動構文 7. 代名動詞構文(1) 8. 代名動詞構文(2) 9. 不定詞構文(動詞のあとに直接不定詞がくるもの) 10. 不定詞構文(動詞+前置詞+不定詞) 11. 不定詞構文(代名動詞を用いるもの) 12. 不定詞構文(知覚構文/使役・放任構文) 13. 不定詞構文(直接、間接目的語を伴うもの) 14. 比較構文 15. 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『フランス語構文練習帳』、石野好一著、第三書房、2014年		試験 70%、平常点(授業への参加態度を含む) 30%	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	大木 勲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期で学習した構文と語彙をもとに、複文、つまり主節と従属節からなる表現を重点的に学びます。</p> <p>それぞれの例で用いられる文法事項を復習しながらその応用の仕方について考え、フランス語作文のために必要な知識を身につけることが目的です。</p> <p>折にふれて、それぞれの構文が用いられる実例などを参照することにより、どのようなシチュエーションでその構文が使えるのかを示したいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の復習 2. 直接目的節(1) 3. 直接目的節(2) 4. 間接目的節(1) 5. 間接目的節(2) 6. 疑問節と間接話法 7. 属詞の目的補語 8. 形容詞節(関係代名詞) 9. 分詞構文 10. 副詞節(時) 11. 副詞節(仮定・条件) 12. 副詞節(理由・原因) 13. 副詞節(目的・結果) 14. 副詞節(対立・譲歩) 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『フランス語構文練習帳』、石野好一著、第三書房、2014年		試験 70%、平常点(授業への参加態度を含む) 30%	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	常盤 僚子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は 1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて 1 年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>*講義内容は多少前後することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 基本文型 I 2. 基本文型 II 3. 基本文型 III 4. 基本文型 IV 5. 基本文型 V 6. 基本文型のバリエーション I 7. 基本文型のバリエーション II 8. 基本文型のバリエーション III 9. 受動構文 I 10. 受動構文 II 11. 代名動詞 I 12. 代名動詞 II 13. 代名動詞 III 14. 代名動詞 IV 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>書名：『Les constructions fondamentales du français : exercices (nouvelle édition) 』(第三書房) 著者：石野好一 ISBN978-4-8086-2197-1</p>		授業参加 20%、小テスト・課題 30%、期末テスト 50%。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	常盤 僚子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は 1 年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて 1 年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>*講義内容は多少前後することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 不定詞構文(1) I 2. 不定詞構文(1) II 3. 不定詞構文(1) III 4. 不定詞構文(1) IV 5. 不定詞構文(1) V 6. 不定詞構文(1) VI 7. 不定詞構文(1) VII 8. 不定詞構文(2) I 9. 不定詞構文(2) II 10. 不定詞構文(2) III 11. 目的節構文 I 12. 目的節構文 II 13. 目的節構文 III 14. 目的節構文 IV 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>書名：『Les constructions fondamentales du français : exercices (nouvelle édition) 』(第三書房) 著者：石野好一 ISBN978-4-8086-2197-1</p>		授業参加 20%、小テスト・課題 30%、期末テスト 50%。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な基本的な構文を修得することを目標とする授業です。</p> <p>下記の教科書を使用し、随時、追加の練習問題を配布します。春学期は、基本5文型とそのヴァリエーション、および受動構文を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 第1課：Ça marche. 3. 第2課：Jean est intelligent. 4. 第3課：Jean mange un gâteau. 5. 第4課：Jean donne des fleurs à Anne. 6. 第5課：Jean trouve Anne intelligent. 7. 第1部まとめ 8. 第6課：Elle est contente de toi. 9. 第7課：Je pense à toi. 10. 第8課：Il tient cet homme pour un menteur. 11. 第2部まとめ 12. 第9課：La porte est fermée. 13. 第10課：Il a été élu président. 14. 第3部まとめ 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石野好一『フランス語構文練習帳』第三書房		平常点、小テスト(複数回)、定期試験の成績を総合して評価します。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次に学んだ初級文法の知識をもとに、フランス語で文章を書くために必要な基本的な構文を修得することを目標とする授業です。</p> <p>下記の教科書を使用し、随時、追加の練習問題を配布します。秋学期は、代名動詞構文、不定詞構文、目的節構文を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 第11課：Il se lave 3. 第12課：Elle se lave les mains. 4. 第13課：Vous vous moquez de moi. 5. 第4部まとめ： 6. 第18課：Jean cesse de travailler. 7. 第21課：Elle est prête à partir. 8. 第22課：Jean voit Anne travailler. 9. 第24課：Elle a dit à sa fille de sortir. 10. 第5部・第6部まとめ 11. 第25課：Jean sait que Marie travaille. 12. 第26課：Je sais où vous allez. 13. 第28課：Je suis sûr que Pierre est en forme. 14. 第7部まとめ 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
石野好一『フランス語構文練習帳』第三書房		平常点、小テスト(複数回)、定期試験の成績を総合して評価します。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。具体的には、共通教科書 <i>Amical</i> の中に登場する構文をとりあげ、その構文にいろいろな単語を入れ変えて繰り返し使います。教材は会話形式で教員が作ります。構文が含まれているその会話を、まず隣の席の人と繰り返し口頭で練習します。次に、同じ会話を書く練習をします。会話練習も筆記練習もパソコンを使用しますので、初回の授業からパソコンが使えるように準備しておいて下さい。</p> <p><i>Amical</i> は今年から使う教材です。総合の授業進度に合わせて、教員がこれから教材を作成する予定です。参考として、去年までの <i>Champion</i> に合わせた授業内容を右欄に紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Il + 間接目的補語 + faut + 必要なもの(レンタカー) 2. Il + 間接目的補語 + faut + 必要なもの(レストラン) 3. Il + 間接目的補語 + fallait + 必要なもの(半過去で) 4. 上の構文に d'abord, ensuite, ne ... que を加える 5. jusqu'à .../à partir de ... + 天候の表現 6. jusqu'à .../à partir de ... と Il faut... の構文組合せ 7. pas de ..., c'est trop + 形容詞, ... peut-être 8. pas de ... と Il + 間接目的補語 + reste... の構文組合せ 9. c'est trop + 形容詞と Il + 間接目的補語 + reste... の構文組合せ 10. Qu'est-ce que ... comme ... 11. Je viens + 不定詞, c'est trop + 形容詞, à partir de ... 12. se faire mal à ..., avoir du mal à ... 13. avoir du mal à ..., ... peut-être の構文組合せ 14. Quand je ..., je ne peux plus + 不定詞 15. aller + 不定詞, Quand je ..., je ne pouvais plus + 不定詞(半過去で) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通教科書 <i>Amical</i> の進度に合わせた教材を、教員が作成し、その都度授業で配布します。		試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上が AA、80点以上が A、70点以上が B、60点以上が C、60点未満は不可になります。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、フランス語でよくつかわれる構文を獲得し、使えるようになることです。具体的には、共通教科書 <i>Amical</i> の中に登場する構文をとりあげ、その構文にいろいろな単語を入れ変えて繰り返し使います。教材は会話形式で教員が作ります。構文が含まれているその会話を、まず隣の席の人と繰り返し口頭で練習します。次に、同じ会話を書く練習をします。会話練習も筆記練習もパソコンを使用しますので、初回の授業からパソコンが使えるように準備しておいて下さい。</p> <p><i>Amical</i> は今年から使う教材です。総合の授業進度に合わせて、教員がこれから教材を作成する予定です。参考として、去年までの <i>Champion</i> に合わせた授業内容を右欄に紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Qu'est-ce que ... comme ... ? + 仕事の語彙 2. jamais / pas encore 3. Il paraît que... / on dit que ..., je crois bien que ... 4. Tu devrais / vous devriez + 不定詞 5. jamais / déjà, tu devrais + 不定詞 6. Qu'est-ce que ... comme ..., on devrait + 不定詞 7. ..., je crois. / ..., je pense. 8. je devrais ..., tu devrais ... 9. même, 人物の描写 10. 複合過去と半過去、人物の描写 11. 複合過去と半過去、持ち物の描写 12. Il paraît que ... / on dit que ..., je crois bien que ... 13. 時間の区切りがある場合の複合過去 14. Quand + 複合過去, je + 半過去 15. 意見を述べる、同意する・しない 	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通教科書 <i>Amical</i> の進度に合わせた教材を、教員が作成し、その都度授業で配布します。		試験期間に行われるテストの得点で評価を行います。90点以上が AA、80点以上が A、70点以上が B、60点以上が C、60点未満は不可になります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、フランスの芸術文化に関する基礎知識の習得、そして「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的としています。そのため、フランスの芸術・文化について、広範なテーマを概括的に学んでいきます。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅰ」（春学期）では、歴史・思想・音楽・文学・美術の各分野のトピックスを学びます。</p> <p>1年生を主な対象者とするので、翻訳や視覚資料などを活用し、分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示します。全講義を通して、それぞれのテーマは別個に存在するのではなく、豊かに広がる文化の地平としてつながり、現在のフランスを形作っていることが理解されるでしょう。</p> <p>この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。初回到に詳細を説明するので、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (谷口亜沙子) 2. フランスの歴史 1 (藤田朋久) 3. フランスの歴史 2 (藤田朋久) 4. フランスの思想 1 (若森榮樹) 5. フランスの思想 2 (若森榮樹) 6. フランスの思想 3 (若森榮樹) 7. フランス歌曲 1 (松橋麻利) 8. フランス歌曲 2 (松橋麻利) 9. 旅と文学 1 (野澤督) 10. 旅と文学 2 (野澤督) 11. フランスの美術館と美術 1 (阿部明日香) 12. フランスの美術館と美術 2 (阿部明日香) 13. フランスの美術館と美術 3 (阿部明日香) 14. まとめ 1 (谷口亜沙子) 15. まとめ 2 (谷口亜沙子) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。参考文献は各教員から授業内に指示される。		毎回小テストもしくはコメントペーパーを課す。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は上記参照。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅱ」（秋学期）では、フランスの文学を中心に学んでゆきます。</p> <p>1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランスならではの魅力に富んだ芸術文化に親しむ入口を開きます。</p> <p>この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっているので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以上のことを了承した上で受講してください。初回到に詳細を説明するので、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (谷口亜沙子) 2. 大衆文学 1 (筒井伸保) 3. 大衆文学 2 (筒井伸保) 4. 大衆文学 3 (筒井伸保) 5. フランス近代文学 1 (福田美雪) 6. フランス近代文学 2 (福田美雪) 7. フランス近代文学 3 (福田美雪) 8. フランスの詩 1 (湯浅博雄) 9. フランスの詩 2 (湯浅博雄) 10. フランスの詩 3 (湯浅博雄) 11. 20世紀の文学 (谷口亜沙子) 12. 20世紀の文学 (谷口亜沙子) 13. 20世紀の文学 (谷口亜沙子) 14. まとめ 1 (谷口亜沙子) 15. まとめ 2 (谷口亜沙子) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントなど。参考文献は各教員から授業内に指示される。		毎回小テストもしくはコメントペーパーを課す。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅰ フランス文化・社会概論 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。各学期に一度、外部講師による講演会が含まれています。</p> <p>初回の授業では「図書館セミナー」を行います。これは図書館で蔵書の検索方法や各種データベースの検索方法などを知るための講座です。履修者は必ず受講してください。（クラス別ガイダンス時に配布されるプリントを参照してください。）</p> <p>なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンス (中村公子) 2. フランスの地域 (鈴木 隆) 3. フランスの地域 (鈴木 隆) 4. フランスの地域 (鈴木 隆) 5. フランスの地域 (鈴木 隆) 6. フランス語と世界 (田中善英) 7. フランス語と世界 (田中善英) 8. フランス語と世界 (田中善英) 9. 講演会「アジア、アフリカから見た日本」 (外部講師： 古屋昭彦) 10. フランスの政治経済 (廣田愛理) 11. フランスの政治経済 (廣田愛理) 12. フランスの政治経済 (廣田愛理) 13. フランスの地方生活 (水林ミシエル) 14-15. まとめ (中村公子) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。参考文献は必要に応じて教室で指示します。		毎回小テストもしくはコメントペーパーを課す。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅱ フランス文化・社会概論 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。各学期に一度、外部講師による講演会が含まれています。</p> <p>なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. フランスの教育と生活 (中村公子) 2. フランスの教育と生活 (中村公子) 3. フランスの教育と生活 (中村公子) 4. フランスの食文化 (江花輝昭) 5. フランスの食文化 (江花輝昭) 6. フランスの食文化 (江花輝昭) 7. 講演会「グローバル化とリージョナリズム —欧州と日本」 (外部講師： 西田恒夫) 8. パリ (横地卓哉) 9. パリ (横地卓哉) 10. パリ (横地卓哉) 11. フランコフォニー (フィリップ・ヴァネ) 12. フランコフォニー (フィリップ・ヴァネ) 13. フランコフォニー (フィリップ・ヴァネ) 14-15. まとめ (中村公子) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。参考文献は必要に応じて教室で指示します。		毎回小テストもしくはコメントペーパーを課す。	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion 2</i></th> <th><i>Reflets 2</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unité 5</td><td>Dossier 5</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 6</td></tr> <tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td>Dossier 7</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 7</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 7</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unité 7</td><td>Dossier 8</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 8</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 8</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unité 8</td><td>Révision</td></tr> <tr><td>14</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr> <tr><td>15</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr> </tbody> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 5	Dossier 5	2	Unité 5	Dossier 5	3	Unité 5	Dossier 5	4	Unité 6	Dossier 6	5	Unité 6	Dossier 6	6	Unité 6	Dossier 6	7	Bilan 2	Dossier 7	8	Unité 7	Dossier 7	9	Unité 7	Dossier 7	10	Unité 7	Dossier 8	11	Unité 8	Dossier 8	12	Unité 8	Dossier 8	13	Unité 8	Révision	14	Révision	Révision	15	Révision	Révision
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 5	Dossier 5																																																	
2	Unité 5	Dossier 5																																																	
3	Unité 5	Dossier 5																																																	
4	Unité 6	Dossier 6																																																	
5	Unité 6	Dossier 6																																																	
6	Unité 6	Dossier 6																																																	
7	Bilan 2	Dossier 7																																																	
8	Unité 7	Dossier 7																																																	
9	Unité 7	Dossier 7																																																	
10	Unité 7	Dossier 8																																																	
11	Unité 8	Dossier 8																																																	
12	Unité 8	Dossier 8																																																	
13	Unité 8	Révision																																																	
14	Révision	Révision																																																	
15	Révision	Révision																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		平常点と学期末試験																																																	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion 2</i></th> <th><i>Reflets 2</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 9</td></tr> <tr><td>4</td><td>Bilan 3</td><td>Dossier 10</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 10</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 10</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unité 10</td><td>Dossier 11</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 11</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 11</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unité 11</td><td>Dossier 12</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 12</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unité 12</td><td>Dossier 12</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unité 12</td><td>Révision</td></tr> <tr><td>14</td><td>Bilan 4</td><td>Révision</td></tr> <tr><td>15</td><td>Révision</td><td>Révision</td></tr> </tbody> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 9	Dossier 9	2	Unité 9	Dossier 9	3	Unité 9	Dossier 9	4	Bilan 3	Dossier 10	5	Unité 10	Dossier 10	6	Unité 10	Dossier 10	7	Unité 10	Dossier 11	8	Unité 11	Dossier 11	9	Unité 11	Dossier 11	10	Unité 11	Dossier 12	11	Unité 12	Dossier 12	12	Unité 12	Dossier 12	13	Unité 12	Révision	14	Bilan 4	Révision	15	Révision	Révision
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 9	Dossier 9																																																	
2	Unité 9	Dossier 9																																																	
3	Unité 9	Dossier 9																																																	
4	Bilan 3	Dossier 10																																																	
5	Unité 10	Dossier 10																																																	
6	Unité 10	Dossier 10																																																	
7	Unité 10	Dossier 11																																																	
8	Unité 11	Dossier 11																																																	
9	Unité 11	Dossier 11																																																	
10	Unité 11	Dossier 12																																																	
11	Unité 12	Dossier 12																																																	
12	Unité 12	Dossier 12																																																	
13	Unité 12	Révision																																																	
14	Bilan 4	Révision																																																	
15	Révision	Révision																																																	
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		平常点と学期末試験																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, société, etc.).</p> <p>この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 5 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Écrire en français (フランス語で書く)』、 著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		平常点 70%、授業への参加態度 30%	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif l'amélioration des compétences lexicales, syntaxiques et stylistiques. Pour ce faire, nous ferons en classe des exercices de rédactions comme : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes variés (littérature, cinéma, voyages, etc.).</p> <p>この文章表現クラスは、フランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常に役立つ表現などを学びます。また、文学・映画・社会問題など、さまざまなテーマに沿った文章作成も行います。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 6 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 7 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 8 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 9 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 10 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Écrire en français (フランス語で書く)』、 著者 : Jean-Luc Azra, ISBN : 978-4-905343-09-7		平常点 70%、授業への参加態度 30%	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Au temps des smartphones et d'internet, écrire est toujours un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses idées et sentiments. Dans ce but, on utilise des règles de logique que nous découvrirons en classe :</p> <p>1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition.</p> <p>2) Travail sur le plan et comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>- À chaque cours, écrire un petit message de la forme Tweet.</p> <p>- Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Ce « grand devoir » est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-3. Découverte de la logique d'un texte (ex. de reconstitution)</p> <p>4-6. Découverte des articulations d'un texte (ex de reconstitution, notion de plan)</p> <p>(5. 1^{ère} version du grand devoir)</p> <p>7-8. Expressions de la cause</p> <p>9-10. Expressions de la conséquence</p> <p>(8. 2^e version du grand devoir)</p> <p>11-12. Expressions du but</p> <p>(12. 3^e version du grand devoir)</p> <p>13-14. Expressions de l'opposition</p> <p>15. commentaires sur la version finale du grand devoir.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2015.		La 3 ^e version du « grand devoir » est notée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	P H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir les explications données pour le premier semestre.</p>		<p>1. Présentation</p> <p>2-3. Comment lire et comprendre un sujet de devoir.</p> <p>4-6. Comment rechercher des idées.</p> <p>(5. 1^{ère} version du grand devoir)</p> <p>7-8. Comment construire un plan.</p> <p>(8. 2^e version du grand devoir)</p> <p>9-11. Étude de différents types de plans.</p> <p>12-13. Étude de différents types d'introduction.</p> <p>(12. 3^e version du grand devoir)</p> <p>14. Comment conclure ?</p> <p>15. Commentaires sur la version finale du « grand devoir ».</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2015.		La 3 ^e version du « grand devoir » est notée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à écrire le français sous diverses formes, comme par exemple l'écriture de lettres, de courriels, d'histoires et de scénarios, sur des sujets divers, comme les loisirs, les voyages, la société et le cinéma .</p> <p>Il sera aussi mis l'accent sur la lecture, celle-ci étant étroitement liée à l'apprentissage de l'écriture.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Correspondance : lettre (familier) 3. Correspondance : lettre (formel) 4. Correspondance : courriel (familier) 5. Correspondance : courriel (formel) 6. Raconter : histoire 1 7. Raconter : histoire 2 8. Scénario : 1 9. Scénario : 2 10. Bande dessinée 11. Donner son opinion 12. Donner son opinion 13. Littérature française 14. Synthèse 15. Synthèse <p>Des exercices d'écriture seront donnés à faire pendant le cours, et aussi d'écriture et de lecture pour chaque cours.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ECRIRE en français niveau A2/B1 Alma éditeur 2013 J.-L. Azra Apporter un DICTIONNAIRE.</p>		<p>Contrôle continu. Un test à la fin du trimestre.</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours reprendra les mêmes formes d'écriture qu'au premier trimestre, en changeant les sujets.</p> <p>Comme au premier trimestre, il aura pour objectif d'apprendre à écrire le français sous diverses formes, comme par exemple l'écriture de lettres, de courriels, d'histoires et de scénarios, et sur des sujets divers, comme les loisirs, les voyages, la société et le cinéma .</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours 2. Correspondance : lettre (familier) 3. Correspondance : lettre (formel) 4. Correspondance : courriel (familier) 5. Correspondance : courriel (formel) 6. Raconter : histoire 1 7. Raconter : histoire 2 8. Scénario : 1 9. Scénario : 2 10. Bande dessinée 11. Donner son opinion 12. Donner son opinion 13. Littérature française 14. Synthèse 15. Synthèse <p>Des exercices d'écriture seront donnés à faire pendant le cours, et aussi d'écriture et de lecture pour chaque cours.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ECRIRE en français niveau A2/B1 Alma éditeur 2013 J.-L. Azra Apporter un DICTIONNAIRE.</p>		<p>Un test à la fin du trimestre. Contrôle continu.</p>	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>和文仏訳。1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文(主語+動詞の文) から、複文(様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文)までの練習を行う。授業はプリントの練習問題の日本語文を仏訳する。履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。</p> <p>和仏辞典についての注意:和辞典(電子版を含む)の付録の簡単な和仏語彙集や、ポケット版仏和・和仏辞典では足りない。白水社『現代和仏小辞典』か、旺文社『フチ・ロワイヤル和仏辞典』か、三省堂『コンサイス和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。</p>		<p>1 回目:授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。</p> <p>2:以降プリントに沿って授業を進める。4 回の授業で 1 課分のプリントを終える進度が標準。</p> <p>3: プリント 1 続き。</p> <p>4: プリント 1 続き。</p> <p>5: プリント 1 続き。</p> <p>6: プリント 2。</p> <p>7: プリント 2 続き。</p> <p>8: プリント 2 続き。</p> <p>9: プリント 2 続き。</p> <p>10: プリント 3。</p> <p>11: プリント 3 続き。</p> <p>12: プリント 3 続き。</p> <p>13: プリント 3 続き。</p> <p>14: 続き。</p> <p>15: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。		学期末試験 (8 割程度) に授業への参加度 (2 割程度) を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記参照。</p> <p>春学期未履修者の履修は可。</p>		<p>春学期の続き。プリントに沿って授業を進める。4 回の授業で 1 課分のプリントを終える進度が標準。</p> <p>1 回目:春学期の続き。プリント 4。</p> <p>2: プリント 4 続き。</p> <p>3: プリント 4 続き。</p> <p>4: プリント 4 続き。</p> <p>5: プリント 5。</p> <p>6: プリント 5 続き。</p> <p>7: プリント 5 続き。</p> <p>8: プリント 5 続き。</p> <p>9: プリント 6。</p> <p>10: プリント 6 続き。</p> <p>11: プリント 6 続き。</p> <p>12: プリント 6 続き。</p> <p>13: プリント 7。</p> <p>14: プリント 7 続き。</p> <p>15: まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p> <p>Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.</p> <p>Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation du cours 2. Se présenter par écrit 3. Présenter sa famille 4. Ecrire sur son quartier 5. Ecrire sur sa ville natale 6. Ecrire à un(e) ami(e) pour être hébergé 7. Ecrire sur un souvenir d'enfance 8. Ecrire sur un souvenir d'enfance 9. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 10. Ecrire sur un livre qu'on a aimé 11. Ecrire sur un film qu'on a aimé 12. Ecrire sur un film qu'on a aimé 13. Ecrire pour refuser un petit boulot 14. Ecrire pour refuser un petit boulot 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p> <p>Contenu du cours : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés.</p> <p>Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Mise en train. Ecriture en toute liberté 2. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 3. Ecrire sur un travail que j'aimerais faire 4. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 5. Ecrire sur un pays où j'aimerais vivre 6. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 7. Ecrire sur l'utilité des compétitions sportives internationales 8. Quel enfant j'étais ? 9. Quel enfant j'étais ? 10. Rêver : ma vie dans 10 ans 11. Rêver : ma vie dans 10 ans 12. Mon école idéale 13. Mon université idéale 14. Ecrire une histoire d'amour 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. ルメタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à rédiger des textes en français sur des sujets variés liés à la vie personnelle et quotidienne ainsi qu'à la vie sociale et professionnelle. Il vise également à développer la créativité et à découvrir le plaisir d'écrire en français.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - lecture d'un court texte ou document modèle (littéraire, d'actualité, pratique, etc.) - exercices de compréhension et d'analyse - point grammatical - composition seul ou en groupe - partage des compositions en classe 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Mise en bouche et jeu d'écriture 2. Vie personnelle, thème 1 : découverte d'un texte 3. Vie personnelle, thème 1 : écriture et partage 4. Vie personnelle, thème 2: découverte d'un texte 5. Vie personnelle, thème 2 : écriture et partage 6. Vie personnelle, thème 3: découverte d'un texte 7. Vie personnelle, thème 3 : écriture et partage 8. Vie sociale, thème 1 : découverte d'un document 9. Vie sociale, thème 1: écriture et partage 10. Vie sociale, thème 2 : découverte d'un document 11. Vie sociale, thème 2 : écriture et partage 12. Vie sociale, thème 3 : découverte d'un document 13. Vie sociale, thème 3 : écriture et partage 14. Epilogue et jeux d'écriture 15. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textes distribués en classe Apporter des dictionnaires (bilingue et monolingue)		Contrôle continu (70%) Un test à la fin du trimestre (30%)	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. ルメタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Comme au premier semestre, ce cours d'expression écrite a pour objectif d'apprendre à rédiger des textes en français sur des sujets variés liés à la vie personnelle et quotidienne ainsi qu'à la vie sociale et professionnelle. Il vise également à développer la créativité et à découvrir le plaisir d'écrire en français. Il est structuré de la même manière qu'au premier semestre. Seuls les thèmes varient.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Mise en bouche et jeu d'écriture 2. Vie personnelle, thème 4 : découverte d'un texte 3. Vie personnelle, thème 4 : écriture et partage 4. Vie personnelle, thème 5 : découverte d'un texte 5. Vie personnelle, thème 5 : écriture et partage 6. Vie personnelle, thème 6: découverte d'un texte 7. Vie personnelle, thème 6 : écriture et partage 8. Vie sociale, thème 4 : découverte d'un document 9. Vie sociale, thème 4 : écriture et partage 10. Vie sociale, thème 5 : découverte d'un document 11. Vie sociale, thème 5: écriture et partage 12. Vie sociale, thème 6 : découverte d'un document 13. Vie sociale, thème 6 : écriture et partage 14. Epilogue et Jeux d'écriture 15. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textes distribués en classe Apporter des dictionnaires (bilingue et monolingue)		Contrôle continu (70%) Un test à la fin du trimestre (30%)	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours de conversation sera un cours de conversation sous forme de jeux de rôle, de mise en situation et de travail de groupe. Nous aborderons des situations de la vie quotidienne, ainsi que des thèmes d'actualités, de culture et de voyage.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Tourisme 3. Tourisme 4. Tourisme 5. Cuisine 6. Cuisine 7. Actualité culturelle (cinéma, musique, art) 8. Rencontre 9. Rencontre 10. Culture 11. Problème à résoudre 12. Problème à résoudre 13. Actualité culturelle (cinéma, musique, art) 14. Actualité 15. Synthèse 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Contrôle continu. Un test à la fin du trimestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	B. ファイフ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours de conversation sera un cours de conversation sous forme de jeux de rôle, de mise en situation et de travail de groupe. Nous aborderons des situations de la vie quotidienne, ainsi que des thèmes d'actualités, de culture et de voyage.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Culture (cinéma, musique, art) 3. Culture (cinéma, musique, art) 4. Tourisme 5. Tourisme 6. Tourisme 7. Cuisine 8. Cuisine 9. Rencontre 10. Rencontre 11. Actualité culturelle 12. Problème à résoudre 13. Problème à résoudre 14. Actualité culturelle 15. Synthèse 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Un test à la fin du trimestre. Contrôle continu.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu :</p> <p>Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous.</p> <p>Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation du cours 2. La musique 3. La musique 4. La chanson 5. La chanson 6. Le cinéma 7. Le cinéma 8. Le français qui bouge 9. Le français qui bouge 10. Les médias 11. Les médias 12. Les loisirs 13. Partir en vacances 14. Partir en vacances 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu :</p> <p>Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous.</p> <p>Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à toutes les activités proposées.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Mise en train 2. Le logement 3. Le logement 4. La maison 5. Les repas 6. Les repas 7. Qui fait la cuisine à la maison ? 8. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? 9. Qui fait les courses ? Où ? Comment ? 10. Nourrir toute la planète 11. L'école de mes enfants 12. Apprendre. Comment ? 13. Apprendre. Comment ? 14. Pourquoi parler plusieurs langues étrangères ? 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	R. ブレッフユエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos compétences en compréhension et en expression orales et de découvrir la France et les Français au travers de 3 grands thèmes :</p> <p>1. l'éducation 2. la culture 3. la société</p> <p>Nous utiliserons des extraits de films, des reportages (vidéo et audio), des chansons ou des clips vidéo pour travailler la compréhension orale. Des documents écrits (articles de journaux et transcription des enregistrements) seront également distribués et étudiés .</p> <p>Après ce travail d'écoute ou de lecture, vous serez invités à vous exprimer sur le thème en répondant à des questions et en faisant de courtes présentations.</p>		<p>1. Présentation du cours et des participants</p> <p>2-3 : La société française en 2015 : portraits</p> <p>4-5 : Tendances : Les Français et leurs smartphones</p> <p>6-7 : Tourisme en France</p> <p>8-9 : Bien manger et bien dormir</p> <p>10-11 : Musique et artistes contemporains</p> <p>12-13 : Le bonheur à la française</p> <p>14-15 : Vacances et tourisme</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par l'enseignant		Contrôle continu (présentations à l'oral) Présence et participation active	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	R. ブレッフユエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos compétences en compréhension et en expression orales et de découvrir la France et les Français au travers de 3 grands thèmes :</p> <p>1. l'éducation 2. la culture 3. la société</p> <p>Nous utiliserons des extraits de films, des reportages (vidéo et audio), des chansons ou des clips vidéo pour travailler la compréhension orale. Des documents écrits (articles de journaux et transcription des enregistrements) seront également distribués et étudiés .</p> <p>Après ce travail d'écoute ou de lecture, vous serez invités à vous exprimer sur le thème en répondant à des questions et en faisant de courtes présentations.</p>		<p>1. Discussion et révisions</p> <p>2-3 : La France et les Français en 2015</p> <p>4-5 : La gastronomie française</p> <p>6-7 : Vie étudiante en France et à l'étranger</p> <p>8-9 : Travailler et vivre en France</p> <p>10-11 : A la découverte des régions françaises</p> <p>12-13 : Musique et chanteurs à texte</p> <p>14-15 : Noël, Nouvel An et bonnes résolutions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies distribuées par l'enseignant		Contrôle continu (présentations à l'oral) Présence et participation active	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Dans ce cours, vous apprendrez à vous exprimer en français sur des thèmes de la vie de tous les jours tout en approfondissant vos connaissances lexicales et grammaticales.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves en fonction du thème du jour - Etude d'un document en relation avec le thème du jour - Discussion sur le thème à partir de l'opinion écrite par chaque élève et envoyée par mail avant chaque cours. - Remise par le professeur d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 L'université et les études 3 Le monde du travail et les petits boulots 4 L'alimentation et la santé 5 La politesse et les traditions 6 Le mariage et les relations hommes / femmes 7 La religion et la spiritualité 8 La musique, jouée et écoutée 9 La télévision, le théâtre et le cinéma 10 Le sport, regardé et pratiqué 11 La lecture, la littérature, les écrivains 12 Internet et les portables 13 La famille, les amis et les fêtes 14 Les vacances et les loisirs 15 Thème choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Pour le semestre d'automne, chaque leçon s'organisera non plus autour d'un thème général, mais autour d'une question précise, reprenant les thèmes du semestre précédent, et qui donnera lieu à un débat.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves sous la forme d'une prise de position au sujet de la question du jour - Travail sur quelques expressions utiles pour les débats. - Etude d'un document en relation avec le débat du jour - Débat entre les élèves à partir de l'opinion écrite par chaque élève et envoyée par mail avant chaque cours. - Remise d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 Le système éducatif actuel est-il satisfaisant ? 3 Les Japonais travaillent-ils trop ? 4 Que devrait-on faire pour vivre plus longtemps ? 5 Toutes les traditions doivent-elles être protégées ? 6 Le mariage est-il une chose nécessaire ? 7 Les Japonais sont-ils un peuple religieux ? 8 La musique devrait-elle être gratuite ? 9 Doit-on interdire aux enfants de regarder la télé ? 10 Doit-on rendre le sport obligatoire pour tous ? 11 Les livres papier ont-ils encore un avenir ? 12 Les nouvelles technologies sont-elles un danger ? 13 Devrait-on interdire l'alcool et le tabac ? 14 Que choisir : les vacances au Japon où à l'étranger ? 15 Débat choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 I 商業フランス語 a	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 II 商業フランス語 b	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点および授業への参加態度 70%、小テスト 30%	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。</p> <p>初回の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいてください。この授業は、TCF310点程度以上を取得した学生を対象としています。</p> <p>2015年のニュースを予測することは不可能ですので、右欄では2014年に扱ったニュースを紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 市町村議会選挙で社会党が敗北 新首相任命へ 2. フランスで「かにかま」風評被害 3. アルジェリア大統領選挙 4. 復活祭の卵 5. 安倍首相 訪仏 6. カヌヌ映画祭 7. EU議会選挙で極右躍進 8. G7開催 9. アナと雪の女王 10. サッカーW杯 日本対コートジボワール 11. サッカーW杯 その2 12. 夏のバーゲン始まる 13. ツールドフランス 14. 7月14日のパレード 15. ラマダン始まる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は、授業の都度、教員が配布します。		テスト期間中に行うテストで評価を決めます。90点以上がAA, 80点以上がA, 70点以上がB, 60点以上がCになります。	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、ニュース、ホームページ、新聞記事を教材として時事フランス語を学び、フランス語圏に関する知識を得ることです。具体的には、①ネット上にあるフランスのテレビ局のニュースをつかって聞き取り練習を行う、②フランス語で作られているホームページで情報を検索する、③ネット上にある新聞記事の読解を行う、という3種類の練習を行います。①②③は、同じテーマで選ばれます。</p> <p>初回の授業からパソコンを使いますので、パソコンにログインできるように準備しておいてください。この授業は、TCF310点程度以上を取得した学生を対象としています。</p> <p>2015年のニュースを予測することは不可能ですので、右欄では2014年に扱ったニュースを紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. フランスがイスラム国を空爆 2. エールフランスが2週間のストライキを実行 3. エボラ出血熱 フランス人看護師が回復 4. 航空機製造業 5. 自動車製造業 6. 万聖節と菊の花 7. トリュフのシーズン 8. 欧州彗星探査機ロゼッタ 9. ボージュレーヌーヴォー 10. もうすぐクリスマス 11. チュニジアで大統領選挙が行われる 12. IOC国際オリンピック委員会で改正 13. ガレット・デ・ロワ 14. フランスでテロ事件 15. 日本人が人質にとられる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材は、授業の都度、教員が配布します。		テスト期間中に行うテストで評価を決めます。90点以上がAA, 80点以上がA, 70点以上がB, 60点以上がCになります。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを説明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを説明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるものとなる（最長3年間重複履修可能）。</p> <p>受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。毎回出席をとる（遅刻2回で欠席1回とする）。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか</p> <p>第2回～第15回：（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。 ・なぜ、aller の活用形は語幹さえ替わるのか。 ・なぜ、beau には bel という男性第二形があるのか。 ・なぜ、des maisons blanches と言うのに、de petites maisons になるのか。 ・なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。 ・不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。 ・否定文と冠詞の関係。 ・なぜ、非人称構文が存在するのか。 ・なぜ、受動態という形式が存在するのか。 ・なぜ、Que Pierre a-t-il fait? とは言えないのか。 ・なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。 ・使役構文と放任構文の仕組み。 ・そもそも中性代名詞とは何か。 <p>扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		平常点、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に外国語教育について学習する。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は、時代の流れに沿って、それぞれの教授法を取り入れた教材にある <i>exercices</i> や <i>activités</i> などを題材にし、その目的と特徴、扱い方、さらに展開させていく方法などを考える。</p> <p>授業は、講義の他、個人作業やグループ作業で進めるので、履修者は欠席や遅刻をしないように！</p> <p>この授業を履修する学生は必ず一回目の授業から出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Méthode grammair-traduction 1 3. Méthode grammair-traduction 2 4. Méthode grammair-traduction 3 5. Méthode grammair-traduction 4 6. Exercices structuraux 1 7. Exercices structuraux 2 8. Exercices structuraux 3 9. Exercices structuraux 4 10. Exercices structuraux 5 11. Jeux de rôles 1 12. Jeux de rôles 2 13. Jeux de rôles 3 14. Jeux de rôles 4 15. まとめ <p>(内容と扱う項目は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		課題や授業参加態度などの平常点、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

08年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に外国語教育について学習する。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な外国語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は、時代の流れに沿って、それぞれの教授法を取り入れた教材にある <i>exercices</i> や <i>activités</i> などを題材にし、その目的と特徴、扱い方、さらに展開させていく方法などを考える。</p> <p>授業は、講義の他、個人作業やグループ作業で進めるので、履修者は欠席や遅刻をしないように！</p> <p>この授業を履修する学生は必ず一回目の授業から出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Compréhension orale 1 3. Compréhension orale 2 4. Compréhension orale 3 5. Compréhension orale 4 6. Expression orale 1 7. Expression orale 2 8. Expression orale 3 9. Expression orale 4 10. Compréhension écrite 1 11. Compréhension écrite 2 12. Compréhension écrite 3 13. Compréhension écrite 4 14. Tâches 15. まとめ <p>(内容と扱う項目は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		課題や授業参加態度などの平常点、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

13年度以降	マスメディアのフランス語 I	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスでは1949年に最初のテレビニュースの放送が開始され、1956年の国民議会議員選挙の際にはじめてテレビでの選挙戦が行われた。しかし、第5共和政が成立する1950年代末においても、家庭へのテレビ受信機の普及率はまだ10%に満たなかった。これが80%に達したのが1974年であり、この年実施された大統領選の決選投票直前に、候補者同士の討論がはじめてテレビで放映された。この時以来、大統領選決選投票の際のテレビ討論は、政治的イベントとして習慣化し（2002年を除く）、候補者にとっては有権者に訴える重要な場となっている。</p> <p>本講義では、テレビ討論の先駆けとなった1974年のジスカールデスタンとミッテランの対決から2012年の大統領選までのテレビ討論を通じて、個々の選挙の時代背景や争点、それぞれの候補者の話し方の特徴、主張の違いなどを確認しつつ、テレビ討論が世論に与えたインパクトを探ることを目的とする。</p>		<p>講義の進度は概ね以下のとおりである。</p> <p>第1回：イントロ 第2回：1974年 ジスカールデスタン 第3回：1974年 ミッテラン 第4回：1981年 ジスカールデスタン 第5回：1981年 ミッテラン 第6回：1988年 シラク 第7回：1988年 ミッテラン 第8回：1995年 シラク 第9回：1995年 ジョスパン 第10回：テレビ討論空白の2002年 シラク 第11回：テレビ討論空白の2002年 ルベン 第12回：2007年 ロワイヤル 第13回：2007年 サルコジ 第14回：2012年 オランド対サルコジ 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		グループワークと発表（40%）、毎回の授業での発言（30%）、提出課題（30%）によって評価する。	

13年度以降	マスメディアのフランス語 II	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の授業では、フランスのマスメディアに登場するスローガンやキャッチコピー、イラストや風刺画、またはその組み合わせが、歴史におよぼした影響を考えます。</p> <p>フランスにおけるマスメディアの原型は、19世紀前半に成立します。七月王政の国王ルイ・フィリップを「洋ナシ」に戯画化するなど、メディアの発達は、風刺画（カリカチュア）の流行と連動してきました。</p> <p>この歴史を踏まえるとき、浮かび上がる問題はふたつです。「なぜメディアは風刺画を多用するのか」ということと、「フランス社会における風刺画の功罪」です。そして、共和国フランスのメディアをめぐる諸問題はすべて、現代の日本を生きる私たちにもかかわっています。</p> <p>受講者には、19世紀のカリカチュアを読みといたり、記事の見出しやフォーマットを手がかりに、まったく異なる政治的立場から発信された、ひとつの事件の報道を比較してもらいます。19世紀末のドレフュス事件、第二次大戦中のヴェルディブ事件など、ユダヤ人問題をめぐる報道は、現代のフランスのみならず、世界全体が抱える差別と矛盾について、複数の視点を得る手がかりになるでしょう。</p> <p>折に触れ、グループにわかれて「風刺画の功罪」、「ライシテ（宗教的非中立性）の功罪」などについてディスカッションし、新たな考察の材料としてもらいます。</p>		<p>（以下はあくまでも実施計画であり、実際の進度に応じて、テーマや順番が変更となる可能性があります。）</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：メディアの萌芽期 第3回：七月王政の風刺画家、ドーミエ 第4回：風刺画におけるキャプション 第5回：娯楽としての三面記事 第6回：19世紀のユダヤ人問題 第7回：ディスカッション（1）「風刺画の功罪」 第8回：普仏戦争敗北後のメディア 第9回：ドレフュス事件のカリカチュア 第10回：ゾラ『私は告発する』 第11回：終わらないドレフュス事件 第12回：ヴェルディブ事件の隠ぺい 第13回：共和国フランスと「ライシテ」 第14回：ディスカッション（2）「ライシテの功罪」 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回の講義で、プリントを配布。		毎回の授業で、参加者全員に発言をしてもらいます。授業やディスカッションへの参加態度と、学期末のレポートを総合的に評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 I フランス語学論 a	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義ではフランス語のコミュニケーションについて論じます。フランス語でやりとりをするということはどのような特徴をもっているのか。具体的な例をとりあげながら検討していきます。コミュニケーションは一方向的な情報伝達ではなく、たえまない他者との対話、交渉を含んでいます。フランス語にはどのような対話の技術、交渉術があるのかを学んでいきます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは何か。(総論) 2. フランス語の言語位相 3. フランス語の語彙の特徴 (名詞・形容詞) 4. フランス語の語彙の特徴 (動詞・副詞) 5. フランス語の構文の特徴 6. フランス語の談話の特徴 7. フランス語の日常会話 (1) 8. フランス語の日常会話 (2) 9. フランス語の対話技術 (1) 10. フランス語の対話技術 (2) 11. フランス語のプレゼンテーション (1) 12. フランス語のプレゼンテーション (2) 13. フランス語の質疑応答法 (1) 14. フランス語の質疑応答法 (2) 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本フランス語教育学会編『フランス語で広がる世界』駿河台出版		<ol style="list-style-type: none"> (1) 平常授業における参加度 (質問、議論) 25% (2) 課題に対する準備度 (プレゼンテーション) 25% (3) 期末試験 (筆記) 50% 	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 II フランス語学論 b	担当者	青木 三郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、引き続きフランス語のコミュニケーションについての理解が深まるように様々なポイントに注目して論じていきます。特に後期は、フランス語における交渉のスキルについて概観し、具体的な例をとりあげながら検討していきます。外交・国際機関における合意形成のプロセス、ビジネス上の交渉プロセス、文化交流における異文化間対話など、様々な現代的課題をとりあげる予定です。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 交渉とは何か。(総論) 2. フランス語の交渉場面の諸相 (1) 3. フランス語の交渉場面の諸相 (2) 4. フランス語の交渉と社会背景 5. フランス語の交渉 (外交・国際機関) 6. フランス語の交渉 (外交・国際機関) 7. フランス語の交渉 (外交・国際機関) 8. フランス語の交渉 (ビジネス) 9. フランス語の交渉 (ビジネス) 10. フランス語の交渉 (文化活動) 11. フランス語の交渉 (文化活動) 12. フランス語の交渉 (文化活動) 13. 交渉のロールプレー 14. 交渉のロールプレー 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
日仏経済交流会編『フランス人の流儀』大修館書店		<ol style="list-style-type: none"> (1) 平常授業における参加度 (質問、議論) 25% (2) 課題に対する準備度 (プレゼンテーション) 25% (3) 期末試験 (筆記) 50% 	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>But du cours</u> :</p> <p>Pouvoir lire et comprendre des textes d'actualité de nature politique, sociologique ou économique.</p> <p><u>Contenu</u> : lecture d'articles de journaux, écrits ou publiés sur le web, ayant rapport à la francophonie, à la France d'outre-mer et surtout aux sociétés de l'océan Pacifique sud.</p> <p><u>Méthode</u> :</p> <p>Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p> <p style="text-align: center;"><u>Pas de traduction.</u></p>		<p>1. Présentation du cours</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode exposée ci-contre d'articles sur l'actualité récente.</p> <p>(5. Petit test de vocabulaire)</p> <p>(9. Petit test de vocabulaire)</p> <p>(12. Petit test de vocabulaire)</p> <p>15. conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2015.		Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux francophones courants.</p> <p><u>Remarque générale</u> pour les deux semestres : À partir de la 3^e année, il est important et urgent d'augmenter son <u>vocabulaire</u> actif et passif pour comprendre la société actuelle, se former une opinion et pouvoir l'exprimer. J'essaierai d'organiser plusieurs contrôles du vocabulaire rencontré.</p>		<p>1. Bilan du premier semestre.</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode présentée au premier semestre d'articles sur l'actualité récente.</p> <p>(5. Petit test de vocabulaire)</p> <p>(9. Petit test de vocabulaire)</p> <p>(12. Petit test de vocabulaire)</p> <p>15. Conclusions générales</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2015.		Petits tests de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix.	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語読解力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。</p> <p>その他：全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。4回以上欠席した場合には、定期試験が満点でも評価対象としない（遅刻2回で1回欠席）。また、単語テストを毎回冒頭に実施し、その点数を評価に加点する。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回～第15回：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ、仏検の過去問題等、さまざまな分野・文体のものである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業は、「外国語としてのフランス語教育」をテーマに、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的としている。</p> <p><講義概要> 今年度は、フランス語教育の歴史的変遷をテキストで追いつながら、それぞれの時代についての教授法について学習する。授業では、日本語で書かれたテキストであらかじめ基礎知識を得てからフランス語で書かれたテキストを読む。なお、随時、グループ作業やグループ発表も取り入れるので欠席しないこと。</p> <p>履修する学生は必ず<u>一回目の授業から</u>参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. 外国語教育 — 概観 1 — 3. 外国語教育 — 概観 2 — 4. 外国語教育 — 概観 3 — 5. 文法訳読教授法 1 6. 文法訳読教授法 2 7. 文法訳読教授法 3 8. SGAV 1 9. SGAV 2 10. SGAV 3 11. SGAV 4 12. 日本におけるフランス語教育 1 13. 日本におけるフランス語教育 2 14. 日本におけるフランス語教育 3 15. まとめ <p>(授業の進行状況により変更することもある。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題(予習等を含む)、個別作業 / グループワークと発表、定期試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業は、「外国語としてのフランス語教育」をテーマに、様々なテキストを通してフランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的としている。</p> <p><講義概要> 今年度は、フランス語教育の歴史的変遷をテキストで追いつながら、それぞれの時代についての教授法について学習する。授業では、日本語で書かれたテキストであらかじめ基礎知識を得てからフランス語で書かれたテキストを読む。なお、随時、グループ作業やグループ発表も取り入れるので欠席しないこと。</p> <p>履修する学生は必ず<u>一回目の授業から</u>参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. SGAV までの教授法 1 3. SGAV までの教授法 2 4. Un Niveau Seuil の前後 1 5. Un Niveau Seuil の前後 2 6. Un Niveau Seuil の前後 3 7. Approche communicative 1 8. Approche communicative 2 9. Approche communicative 3 10. Approche communicative 4 11. Approche communicative 5 12. Perspectives actionnelles 1 13. Perspectives actionnelles 2 14. Perspectives actionnelles 3 15. まとめ <p>(授業の進行状況により変更することもある。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		授業参加態度、課題(予習等を含む)、個別作業 / グループワークと発表、定期試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	野澤 督
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>簡単なフランス語で書かれたテキストを読むことで、1) フランス語を読解する基礎力の獲得、2) テキストの内容を考察・分析し、取り上げられた主題について自分の意見を伝える力の向上を目指す。また、グループワークやプレゼンテーションを通して、文化的差異を確認しながら思考する力を身につけることを目的とする。</p> <p>【講義概要】</p> <p>Régis Debrayの<i>La République expliquée à ma fille</i> (Le Seuil)を読みながら、「レピュブリック」の概念について考える。テキストの輪読を行なう一方で、テキストの内容についてグループで発表を行なう。また学期末にはテキストで扱ったテーマに関するレポートを課す。</p>		<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法）</p> <p>第2回：I. Les deux modèles 1</p> <p>第3回：I. Les deux modèles 2</p> <p>第4回：I. Les deux modèles 3</p> <p>第5回：II. Les mots et les choses 1</p> <p>第6回：II. Les mots et les choses 2</p> <p>第7回：II. Les mots et les choses 3</p> <p>第8回：中間発表</p> <p>第9回：III. Civilité, citoyenneté, nationalité 1</p> <p>第10回：III. Civilité, citoyenneté, nationalité 2</p> <p>第11回：III. Civilité, citoyenneté, nationalité 3</p> <p>第12回：IV. Le courage de la loi 1</p> <p>第13回：IV. Le courage de la loi 2</p> <p>第14回：IV. Le courage de la loi 3</p> <p>第15回：発表とまとめ</p> <p>授業の進行状況に応じて、計画を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Régis Debray, <i>La République expliquée à ma fille</i> . 参考文献は授業内で適宜指示する。		授業参加度・小テスト（20%）、授業内発表(30%)、学期末のレポート（50%）によって総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	野澤 督
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】</p> <p>簡単なフランス語で書かれたテキストを読むことで、1) フランス語を読解する基礎力の獲得、2) テキストの内容を考察・分析し、取り上げられた主題について自分の意見を伝える力の向上を目指す。また、グループワークやプレゼンテーションを通して、文化的差異を確認しながら思考する力を身につけることを目的とする。</p> <p>【講義概要】</p> <p>Régis Debrayの<i>La République expliquée à ma fille</i> (Le Seuil)の続きを読むため、前期とあわせて履修することが望ましい。そのあとは、Jacques Sémelinの<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> (Le Seuil)の抜粋を読む。</p> <p>テキストの輪読を行なう一方で、テキストの内容についてグループで発表を行なう。また春学期の学習事項を参考にして、「レピュブリック」に関連する具体的な問題を対象にしたレポートを学期末に課す。</p>		<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法）</p> <p>第2回：V. Le principe de laïcité 1</p> <p>第3回：V. Le principe de laïcité 2</p> <p>第4回：V. Le principe de laïcité 3</p> <p>第5回：VI. La tâche sans fin 1</p> <p>第6回：VI. La tâche sans fin 2</p> <p>第7回：VI. La tâche sans fin 3</p> <p>第8回：中間発表</p> <p>第9回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 1</p> <p>第10回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 2</p> <p>第11回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 3</p> <p>第12回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 4</p> <p>第13回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 5</p> <p>第14回：<i>La non-violence expliquée à mes filles</i> 6</p> <p>第15回：発表とまとめ</p> <p>授業の進行状況に応じて、計画を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Régis Debray, <i>La République expliquée à ma fille</i> . 他のテキストについてはプリントを配布する。 参考文献は授業内で適宜指示する。		授業参加度・小テスト（20%）、授業内発表(30%)、学期末のレポート（50%）によって総合的に評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 I フランスの美術 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 17世紀から19世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の画家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. プッサン 3. ヴーエ 4. ワトー 5. シャルダン 6. ダヴィッド 7. アングル 8. ドラクローワ 9. クールベ 10. ドーミエ 11. ミレー 12. ビュヴィ・ド・シャヴァンヌ 13. マネ 14. 印象派 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 印象派以降、20世紀初頭までのフランス美術の展開を概観します。 代表的な作家と作品について知るとともに、印象派以降のさまざまな美術の動向と、それらが提起する問題について理解を深めることを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の作家を中心に上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 印象派 3. セザンヌ 4. スーラ 5. ルドン 6. ゴーギャン 7. ナビ派 8. ゴッホ 9. ジャポニスム 10. トゥールーズ=ロートレック 11. エコール・ド・パリ 12. マティス 13. アンリ・ルソー 14. まとめ1 15. まとめ2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 I フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽史の大きな流れを辿ることで、人の精神的な営みがいかに時代を反映するものであるかを検証し、現代を含めた時代を考える手がかりを見つけることを目的とします。</p> <p>春学期はまず、6～7世紀頃から掘り起こし、キリスト教が音楽の発展にどのように関わったかを見ていきます。18世紀前半までを扱います。</p> <p>できるだけ音楽を聴きながら進めますが、授業中に歌う場合には積極的に参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. キリスト教前史 3. グレゴリオ聖歌とその特徴 4. ミサについて 5. レクイエムについて 6. 中世の多声音楽の始まり 7. 世俗音楽について 8. 中世からルネサンスへ 9. ルネサンス時代 10. バロック時代とオペラの始まり 11. オラトリオ 12. ドイツ・バロック 13. フランス・バロック (1) 14. フランス・バロック (2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		2回の試験の平均 (1/3以上の欠席者は受験資格がない)	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 II フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽史の大きな流れを辿ることで、人の精神的な営みがいかに時代を反映するものであるかを検証し、現代を含めた時代を考える手がかりを見つけることを目的とします。</p> <p>秋学期は、18世紀後半から20世紀前半までを対象とします。フランスの個々の作曲家にっそう焦点を当てて、時代精神に呼応したフランス音楽の特質を学びます。</p> <p>できるだけ音楽を聴きながら進めますが、授業中に歌う場合には積極的に参加すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランスの古典主義 3. ロマン主義の始まり 4. ベルリオーズ 5. グノー 6. デュパルク 7. ショーソン 8. フォーレ (1) 9. フォーレ (2) 10. ドビュッシー (1) 11. ドビュッシー (2) 12. ドビュッシー (3) 13. ラヴェル (1) 14. ラヴェル (2) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリントを配布。 参考文献：授業時に紹介。</p>		2回の試験の平均 (1/3以上の欠席者は受験資格がない)	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 I フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度は「フランス・バレエの歴史」をテーマとして扱います。</p> <p>春学期は「宮廷バレエー宮廷舞踏からオペラ・バレエへ」と題し、16世紀から18世紀にかけてのフランスにおける宮廷バレエの成立からその発展的解消までの歴史を講義します。宮廷バレエはフランスの宮廷社会が生み出した独特の芸術様式で、その形式は、絶対王政の進展とともに独自の政治的・社会的・文化的意味を担って発展してきました。それは、ダンス・音楽・舞台装置・衣裳・歌・朗読などが組み合わされた総合的なスペクタクルであり、19世紀以降の寡黙な近代バレエ、ロマンチック・バレエとはかなり内容、性質、テクニク等が異なります。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期授業概要の説明 2. 宮廷舞踏の誕生（16世紀） 3. 宮廷舞踏から宮廷バレエへ（イタリアの影響） 4. 『王妃の演劇的バレエ』 5. 宮廷バレエの身体技法 6. ルイ13世期のバレエ概観 7. ルイ14世期のバレエ概観 8. 『夜のバレエ』他 9. 宮廷祝祭とバレエ 10. モリエールのコメディ・バレエ 11. 『町人貴族』 12. オペラ・バレエの誕生 13. 18世紀のバレエ概観 14. ジャン＝フィリップ・ラモーン、ノヴェール 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし6回以上欠席した場合には自動的にF評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 II フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期は、19世紀以降の近代バレエの歴史をたどります。宮廷バレエのダンサーは男性中心でしたが、19世紀にのバレエは女性中心となり、バレエ・リュスの衝撃を経て、20世紀に再び男性がバレエの世界に戻ってきます。近代バレエの歴史を理解する上で欠かせないフランスとロシアが果たした役割についても扱い、19、20世紀におけるバレエ史上のスターたちについてもフランス関係を中心に紹介します。ただし、この授業では、あくまで文化史的な観点からバレエを考察し、その歴史的な意味を探ります。単にバレエが好きだから等の理由でこの授業を選択しても、期待したような内容の話聞くことはできないでしょう。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期授業概要の説明 2. ロマンティック・バレエの誕生 3. 『ラ・シルフィード』 4. 『ジゼル』 5. ロマンティックからクラシックへ 6. 『 Coppélia 』他 7. フランスからロシアへ 8. 『白鳥の湖』 9. 『眠れる森の美女』 10. ロシアから再びフランスへーバレエ・リュス 11. バレエ・リュスの作品 12. 20世紀のバレエ概観 13. モーリス・ベジャール 14. オペラ座バレエ団 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし6回以上欠席した場合には自動的にF評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 I フランス文学史 a	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この学期には、19世紀フランス文学史を学ぶ。19世紀前半のフランスの文学・芸術の特徴は、ロマン主義が興隆していったことである。このことは、フランス革命や7月革命、2月革命などによる社会の変化と切り離せない。参考文献として、ヴィクトル・ユゴーの詩作品、ボードレールの美術批評「ロマン主義とはなにか」などを読みながら、こうした点を考える。</p> <p>さらに、19世紀中期から後半にかけては、一方でフローベールのような優れた小説家が現れ、他方では、ボードレールを偉大な先駆者として、マラルメ、ランボーのような卓越した詩人たちが出現する。これらの作家や詩人たちの特徴を考察していきたい。少しずつ、丁寧に解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. フランス革命（1789年）とフランス近代社会 3. フランス革命とフランス・ロマン主義(1) 4. フランス革命とフランス・ロマン主義((2) 5. フランス・ロマン主義について(1) 6. フランス・ロマン主義について(2) 7. フランス・ロマン主義について(3) 8. フランス・ロマン主義について(4) 9. フランス・ロマン主義について(5) 10. ヴィクトル・ユゴーをめぐる(1) 11. ヴィクトル・ユゴーをめぐる(2) 12. ボードレールの詩作品 13. ボードレールの美術批評(1) 14. ボードレールの美術批評(2) 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを用意する		期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 II フランス文学史 b	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この学期には、フランス文学史 Iを引き継いで、19世紀フランス文学史および20世紀フランス文学史を学ぶ。ボードレールの詩作品、批評作品、さらにはランボーの詩作品、マラルメの「文学言語論」などを検討しながら、19世紀後半の文学の状況を考える。</p> <p>さらに、時間の許す限りで、20世紀の文学を見る。20世紀前半には、ブルーストの『失われた時を求めて』のような現代性を備えた、優れた小説作品が書かれており、また、ブルトンたちによるシュルレアリスムの文学運動が現れた。参考文献を読みつつ、これらの文学の特徴を考えてみる。やや難しいところもあるので、少しずつ、丁寧に解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ネルヴァルとドイツ・ロマン主義の影響(1) 2. ネルヴァルとドイツ・ロマン主義の影響(2) 3. ネルヴァルの小説作品 (1) 4. ネルヴァルの小説作品(2) 5. フローベールの小説作品(1) 6. フローベールの小説作品((2) 7. ランボーの詩作品(1) 8. ランボーの詩作品(2) 9. ランボーの「見者の手紙」について 10. マラルメの初期作品 11. マラルメの「詩の危機」について 12. ブルーストの小説作品について(1) 13. ブルーストの小説作品について(2) 14. ブルトンとシュルレアリスムについて 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを用意する		期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。	

13年度以降 08～12年度	フランス語圏の文学 I フランスの文学 I	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2015年はソ連軍によるアウシュヴィッツ収容所の「解放」から70周年にあたります。</p> <p>今年度は「第二次世界大戦とホロコーストの記憶をフランス語圏の文学がいかにかに語ってきたか」を考えます。</p> <p>春学期には、主に次のような事柄を扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奇妙な戦争 ・ 対独協力とヴィシー政権 ・ レジスタンスの神話と脱神話 ・ 「パリ解放」の舞台裏 ・ ヴェル・ディヴ事件 ・ オフェルス『哀しみと憐れみ』 ・ ランズマン『ショアー』の衝撃 ・ ホロコーストと表象不可能性 ・ 知ることと想像すること 		<ol style="list-style-type: none"> 1. アネット・ヴィヴィオルカ『証人の時代』 2. ヴェルコール『海の沈黙』 3. サルトル『ユダヤ人』 4. エリ・ヴィーゼル『夜』 5. エレーヌ・ベール『日記』 6. ロベール・アンテルム『人類』 7. マルグリット・デュラス『苦痛』 8. イレーヌ・ネミロフスキ『フランス組曲』 9. ホルヘ・センブルン『大いなる旅』 10. ロベール・メルル『死は我が職業』 11. パトリック・モディアノ『ドラ・ブリュデー』 12. ロベール・ボベール『ベルグとベック』 13. ジョルジュ・ペレック『エリス島の物語』 14. ディディ＝ユベルマン『イメージ、それでもなお』 15. シャルロット・デルボ『アウシュヴィッツとその後』 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリモ・レヴィ『アウシュヴィッツは終わらない』『溺れる者と救われる者』		授業態度 (10%)、コメントペーパー (20%)、期末レポート (70%)。遅刻、居眠りは減点します。	

13年度以降 08～12年度	フランス語圏の文学 II フランスの文学 II	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きの内容なので、春学期から受講をしていることが望ましいです。</p> <p>秋学期は、比較的近年になってからスポットがあてられるようになってきたテーマをめぐって、1989年以降の小説の動向を探ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1997年の波 ・ 東方戦線における「射殺によるショアー」 ・ 連合軍によるノルマンディー空爆 ・ オラドゥール・シュル・グラヌの虐殺 ・ ナショナルな記憶とローカルな記憶 ・ 植民地兵によるレジスタンス ・ 植民地のユダヤ人 ・ 連合国の情報収集と責任問題 ・ フィクションの力 ・ 第三世代の課題 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ローラン・ビネ『HHhH』 2. フランソワ・ティボー『影のノートル・ダム』 3. ナンシー・ヒューストン『時のかさなり』 4. ユベール・マンガレリ『冬の食事』 5. ジョナサン・リテル『慈しみの女神たち』 6. フィリップ・グランベール『ある秘密』 7. ジャック＝ピエール・アメット『二匹の山猫』 8. フレデリック・ブラン『ペルラ』 9. ピエール・アスリーヌ『密告』 10. ヤニック・エネル『ヤン・カルスキ』 11. ティエルノ・モネネンボ『黒いテロリスト』 12. ミシェル・カン『恐怖の庭園』 13. リディ・サルヴェール『幽霊たちの同伴者』 14. ダヴィッド・フェンキノス『シャルロット』 15. ヴァレリー・ゼナティ『ヤコブ、ヤコブ』 <p>この通りの順番とは限りませんが、授業で扱う予定の作品を挙げておきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ジャン＝フランソワ・フォルジュ『20世紀の子供たちにアウシュヴィッツをいかに教えるか』		授業態度 (10%)、コメントペーパー (20%)、期末レポート (70%)。遅刻、居眠りは減点します。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 I フランス文学各論 a	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「文学・芸術と言葉」というテーマ、さらに広く言えば、「文化的なものと言語的なもの」というテーマについて考察する。</p> <p>20世紀になると、言語についての研究が進んだおかげで、すべての文化的なものは言葉という基礎に基づいて成り立っていることが明らかになってきた。そういう見方を深めるうえで最大の貢献をなしたのは、スイスの言語学者フェルディナン・ド・ソシュールである。ここでは、ソシュールの思想を、たとえば「言語記号」の議論、「シニフィアンとシニフィエ」の議論などの主題に沿うかたちで、綿密に検討していきたい。言語論の領域は、なじみが薄いかもしれないので、少しずつ、論点と論理を確認しながら、納得したうえで進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 文化的なものと言葉 3. 文化的なものと言葉の関わりについて 4. 言葉をどう捉えるか 5. 言語と言語活動について 6. 言語（ラング）と個々人の語る言葉（パロール） 7. 言葉は社会的な制度だろうか 8. 言葉を語ることと書くこと 9. 言葉がシーニュであるとはどういうことか(1) 10. 言葉がシーニュであるとはどういうことか(2) 11. 言葉がシーニュであるとはどういうことか(3) 12. 言葉がシーニュであるとはどういうことか(4) 13. 言葉がシーニュであるとはどういうことか(5) 14. 講義の復習 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで、プリントを用意する		期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 II フランス文学各論 b	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、フランス芸術文化各論 I を引き継いで、「文化的なものと言語的なもの」というテーマについて考察する。春学期に行なった考察を続けて、ソシュールの言語思想を、できる限り、わかりやすく解説していく。たとえば、言葉を歴史的に捉えて考える「通時態」的な分析と、そうではなく、言葉を、ある一つの限定された時代と社会における形式として捉えて考える「共時態」的な分析を、具体的な例に即して、見ていきたい。</p> <p>そうするなかで、言葉と文化の関わりについても、触れていくことにする。こうした領域を考察することは、文学や文化の基盤を検討することになるが、なじみが薄いかもしれないので、少しずつ、論点と論理を確認しながら、納得したうえで進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. もう一度、言語活動について 3. 記号の次元と実体的なものの次元(1) 4. 記号の次元と実体的なものの次元(2) 5. 記号の次元と実体的なものの次元(3) 6. 言葉が「花」と名づけることはどういうことか(1) 7. 言葉が「花」と名づけることはどういうことか(2) 8. 言葉が「花」と名づけ、その「意味」が伝わること(1) 9. 言葉が「花」と名づけ、その「意味」が伝わること(2) 10. 文学作品は言葉によって書かれるのだが、それはどういう意味あいを持つだろうか 11. 文学における言葉づかいはどんな特徴を持つか(1) 12. 文学における言葉づかいはどんな特徴を持つか(2) 13. 文学的・詩的な言語活動について(1) 14. 文学的・詩的な言語活動について(2) 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで、プリントを用意する		期末に、講義内容についての、自由なレポートを書いてもらい、評価する(100%)。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 I フランス文学各論 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理的にフランスと隣接し、なおかつ異文化との接触によって複雑な歴史を歩んできたふたつの国、ベルギーとスペインについて、芸術文化の分野においてフランスに与え、またフランスから受けた影響を、考えます。</p> <p>小国ベルギーは、ワロン語とフラマン語のふたつの言語文化をもち、首都ブリュッセルにはEUの本部が行われ、まさに現代ヨーロッパの複雑な状況を体現した国です。</p> <p>ワッフルやショコラなどの豊かな食文化、フランドルの絵画、19世紀末の象徴芸術運動など、ベルギーの芸術がフランスにもたらした影響は決して少なくありません。</p> <p>講義では、前半はベルギー絵画、後半では文学作品をとりあげ、じっさいに音楽を聴き、映像をみることによって、ベルギーの諸都市をとりまく、「水」と「青」のメランコリックで神秘的なイメージを共有したいと考えます。</p> <p>受講者はただ授業を聴くだけでなく、ひとり1回は、自分が興味をもった小テーマ（食文化、モニュメント、有名人など）をわりふり、10分程度で発表してもらいます。</p>		<p>以下はあくまでも実施計画であり、実際の進捗とは異なる可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：ルーヴルにおけるフランドル美術 第3回：フランドル絵画紀行（1） 第4回：フランドル絵画紀行（2） 第5回：ブリュッセルの建築 第6回：「北のヴェニス」ブリュージュ 第7回：ローデンバック『死都ブリュージュ』 第8回：メーテルランク『ペレアスとメリザンド』（1） 第9回：メーテルランク『ペレアスとメリザンド』（2） 第10回：メーテルランク『ペレアスとメリザンド』（3） 第11回：メーテルランク『ペレアスとメリザンド』（4） 第12回：19世紀末のベルギー芸術（1） 第13回：19世紀末のベルギー芸術（2） 第14回：ベルギー、ルワンダ、ストロマエ 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（参考文献）小川秀樹『ベルギーを知るための52章』、明石書店、2009</p> <p>ほか、随時プリントを配布。</p>		授業での発言、小テーマの発表と、学期末のレポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 II フランス文学各論 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>かつての大国スペインは、近代に入るとたびたびフランスと戦争を繰り返して、因縁浅からぬ関係にありました。しかし、フランス南部とスペイン北部は、ピレネー山脈を越えて、さまざまな文化の往来がありました。また、地中海に面したスペインは、北アフリカときわめて近く、ヨーロッパにおけるイスラム文化の入り口でもありました。</p> <p>スペインの芸術がフランスに与えた影響はきわめて大きく、逆もまた然りです。ベラスケスやゴヤなくして、マネと印象派の活躍はなく、芸術都市パリなくして、ピカソやダリはいなかったでしょう。また、情熱的なジプシー女カルメンは、19世紀に流行した「運命の女」の象徴です。</p> <p>講義では、前半はスペイン絵画、後半では文学作品をとりあげ、じっさいに音楽を聴き、映像をみることによって、「火」と「燃える赤」というスペインに対するイメージがなぜ形成されてきたのかを考えたいと思います。</p> <p>受講者はただ授業を聴くだけでなく、ひとり1回は、自分が興味をもった小テーマ（食文化、モニュメント、有名人など）をわりふり、10分程度で発表してもらいます。</p>		<p>以下はあくまでも実施計画であり、実際の進捗とは異なる可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：『ドン・キホーテ』とその影響 第3回：ベラスケス（1） 第4回：ベラスケス（2） 第5回：ゴヤ（1） 第6回：ゴヤ（2） 第7回：カタロニアの芸術文化 第8回：メリメの『カルメン』（1） 第9回：メリメの『カルメン』（2） 第10回：ビゼーの『カルメン』（1） 第11回：ビゼーの『カルメン』（2） 第12回：パリにきた画家たち - ダリ 第13回：パリにきた画家たち - ピカソ 第14回：ガウディの建築 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（参考文献）川成洋『現代スペイン読本 知っておきたい文化・社会・民族』、丸善出版、2008</p> <p>ほか、随時プリントを配布。</p>		授業での発言、小テーマの発表と、学期末のレポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラファイエット夫人『クレヴの奥方』を読む</p> <p>春学期は、17世紀の女流作家ラファイエット夫人の、『クレヴの奥方』 <i>La Princesse de Clève</i> を読みます。</p> <p>ルイ14世の時代に書かれたこの作品は、史実を題材としながらも、「結婚後の恋愛」にともなう苦しみ、悩み、陶酔などの普遍的な心理を描いています。</p> <p>ラファイエット夫人は、騎士と姫君の宮廷恋愛物語という伝統を踏まえながら、理性的な意思とこまやかな情愛を兼ね備えたヒロイン、クレヴの奥方を創造したことで、フランス恋愛小説の新しい「型」をうちたてました。</p> <p>講義では、「落とした手紙」をめぐる誤解、クレヴの奥方が夫にする驚くべき告白、クロミエの館の庭での垣間見など、とくに有名なエピソードをフォーカスし、恋人たちの心情の機微を読みときます。各受講者には、当時の歴史的背景の解説、ないし訳読を担当してもらいます。</p>		<p>以下はあくまでも実施計画であり、実際の進捗とは異なる可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：ルイ14世の宮廷とラファイエット夫人 第3回：宮廷恋愛小説とはなにか 第4回：アンリ2世時代の歴史的背景 第5回：シャルトル姫の美貌 第6回：嫁ぐ娘に語る母 第7回：ヌムール公の思慕 第8回：初恋の自覚 第9回：落とした「手紙」 第10回：ふたりきりの企み 第11回：妻から夫への告白 第12回：肖像画を眺める恋人 第13回：夫の苦悩 第14回：別離 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ラファイエット夫人『クレヴの奥方』、生島遼一訳、岩波文庫 Madame Lafayette, <i>La Princesse de Clève</i> , Folio		随時、前回読んだところから2, 3行程度の翻訳を課します。訳文の質と、担当箇所の発表、学期末のレポートとあわせて評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラクロ『危険な関係』を読む</p> <p>秋学期は、18世紀後半の作家ショデルロ・デ・ラクロの『危険な関係』 <i>Les Liaisons dangereuses</i> を読みます。</p> <p>フランス革命の迫る、1782年に発表されたこの書簡体小説は、悪徳の栄えと美德の不幸を描いたスキャンダラスな作品として、大きな反響を呼びました。</p> <p>名うてのプレイボーイ、ヴァルモン子爵は、妖艶なメルトゥイユ侯爵夫人にそそのかされ、清純な少女セシルと、貞淑な人妻のツールヴェル院長夫人に、危険な恋の戯れをしかけますが、運命は思わぬ方向に全員を導きます。</p> <p>登場人物がとりかわす175通の手紙は、嘘や見栄、本心の告白がないまぜになり、相手にわたるごとに、人間関係の糸を複雑にもつれさせ、やがて破局へと至るスリリングな物語を構成しています。</p> <p>授業では、担当者ひとりにつき数通の手紙をわりあて、とくに鍵となる手紙について訳読・解説してもらいます。</p> <p>『危険な関係』は、17世紀以降の宮廷恋愛小説に対するアンチテーゼであると同時に、19世紀ロマン主義小説の地平を切り開く、残酷なまでに怜悯な心理小説です。フランスならではの男女の恋愛のあやを読み解きましょう。</p>		<p>以下はあくまでも実施計画であり、実際の進捗とは異なる可能性があります。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：18世紀、退廃のパリ 第3回：書簡体小説とはなにか 第4回：少女セシルの社交界デビュー 第5回：妖婦とプレイボーイの賭け 第6回：法院長夫人の美德 第7回：恋人の体を机がわりに… 第8回：婚約者の略奪 第9回：メルトゥイユ夫人の嫉妬 第10回：望まれぬ妊娠 第11回：逃げ去る人妻 第12回：遂げられた思い 第13回：誤解と怒り 第14回：決闘のはてに 第15回：映画になった『危険な関係』</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ラクロ『危険な関係』、竹村猛訳、角川文庫 Choderlos de Laclos, <i>Les Liaisons dangereuses</i> , Folio		毎回、前回読んだところから2, 3行程度の翻訳を課します。訳文の質と、担当箇所の発表、学期末のレポートとあわせて評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 春学期は Alain Jaubert, <i>Palettes</i>, (Éditions Gallimard, 1998)より、ジョルジュ・ド・ラ・トゥール《ダイヤのエースのいかさま師》(1635年頃、ルーヴル美術館)について分析、解説した文章を読みます。 登場人物たちの服装や表情、画面に配された小物類のもつ象徴的な意味などから、この謎めいた作品を読み解いてゆきます。</p> <p>授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。</p> <p>一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+テキスト配布+訳読 (p.81) 2. Des costumes à déchiffrer (p.82) 3. De Trèfle à carreau (p.83) 4. Le thème du jeu de cartes (p.84) 5. L'autre scène (p.85) 6. L'autre scène (p.86) 7. Théorie du visage et des émotions (p.87) 8. Lignes et entrelacs (p.88) 9. Lignes et entrelacs (p.89) 10. Pinceau calligraphique (p.90) 11. Mythes et légendes (p.91) 12. Mythes et légendes (p.92) 13. まとめ 1 14. まとめ 2 15. まとめ 3 <p>*進度は目安です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の訳読）と学期末試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 具体的な美術作品について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学び、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 秋学期は Alain Jaubert, <i>Palettes</i>, (Éditions Gallimard, 1998)より、ヴァン・ゴッホ《アルルの部屋》について分析、解説した文章を読みます。 ゴッホの手紙を参照しつつ、作品を丁寧に分析していくことで、単なる室内画にとどまらない作品の意味がじよじよに明らかになってゆきます。</p> <p>授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。</p> <p>一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス+テキスト配布+訳読 (p.190) 2. La lumière d'Arles(p.191) 3. La lumière d'Arles(p.192) 4. Arrivée de Gauguin (p.193) 5. D'Arles à Saint-Rémy (p.194) 6. Des teintes plates et franches (p.195) 7. Des touches discontinues (p.196) 8. Distorsions et contradictions (p.197) 9. Le plan de la maison jaune (p.198) 10. Le plan de la maison jaune (p.199) 11. La chambre autoportrait (p.200) 12. Porte, fenêtre, miroir (p.201-202) 13. まとめ 1 14. まとめ 2 15. まとめ 3 <p>*進度は目安です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（毎回の訳読）と学期末試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をちゃんと話したり書いたりできるようになりたかったら、しっかりと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。</p> <p>今年度は、2014年にノーベル文学賞を受賞したフランスの作家 Patrick Modiano の「<i>De si braves garçons</i>」『かくも気のいい仲間たち』(1982)の抜粋を読みます。中学校の寄宿舎に暮らした<語り手>と仲間たち、あるいは先生たちの<その後の人生>に焦点が当てられて物語は進んでいき、人生そのものの悲哀、孤独あるいは苦味が次第に浮き上がってきます。</p> <p>Modiano のテキストはそれほど難解なものではありませんが、独特の濃い霧の中を進むような文章なので、きちんと時間をかけた読み込み作業が必要となるでしょう。</p>		<p>1. 授業概要の説明、テキストの紹介</p> <p>2～15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。		平常点、学期末定期試験を総合的に勘案して評価。ただし、一度も授業中に訳を担当しなかった者は、試験の成績如何に関わらず F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期も継続して Patrick Modiano の「<i>De si braves garçons</i>」『かくも気のいい仲間たち』を読みます。</p>		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度はレジスタンス活動のために、アウシュヴィッツに収容され、生還した作家シャルロット・デルボ (1913-1985) の作品を読みます。</p> <p>春学期は『アウシュヴィッツとその後』三部作の第一巻「私たちのうち誰ひとり戻れないだろう」と第二巻「無益な知」の抜粋を読みます。</p> <p>邦訳はありません。</p> <p>授業は挙手による自発的な発表によって進められます。発表、試験とも、日本語にするだけではなく、代名詞のさすものや、時制についてなど、正確な理解が問われます。</p> <p>受講希望者は初回から必ず参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Charlotte Delbo 2. <i>Auschwitz et après I, Aucun de nous ne reviendra</i> 3. « Ô vous qui savez » 4. « Dialogue » 5. « Le Matin » 6. « L'Appel » 7. « La Maison » 8. « La Tulip » 9. « Lulu » 10. <i>Auschwitz et après II, Une connaissance inutile</i> 11. « Je lui disais mon jeune arbre » 12. « Lily » 13. « Au début, nous voulions chanter » 14. « Le Misanthrope » 15. « Le Matin de la liberté » 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布。		挙手による発表(音読 20%、翻訳 20%)、期末テスト(60%) 居眠りと遅刻は減点します。	

08年度以降 07年度以降	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は春学期の続きとして、シャルロット・デルボによる『アウシュヴィッツとその後』三部作の第三巻「我々の日々の尺」と「記憶と日々」を読みます。</p> <p>第一巻から第三巻にかけて読むことで、三部作の様式が、なぜこのように変化したのかが理解できるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Charlotte Delbo 2. <i>Auschwitz et après III, Mesure de nos jours</i> 3. « Gilberte » (1) 4. « Gilberte » (2) 5. « Mado » (1) 6. « Mado » (2) 7. « Mado » (3) 8. « Louise » (1) 9. « Louise » (2) 10. « L'Enterrement » 11. <i>La Mémoire et les jours</i> 12. « Tombeau du dictateur » 13. « Varsovie » 14. « Les folles de mai » 15. « Kalavrita des mille Antigone » 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布。		挙手による発表(音読 20%、翻訳 20%)、期末テスト(60%) 居眠りと遅刻は減点します。	

08年度以降 07年度以前	フランス語芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。</p> <p>ランボーは、19世紀の後半に文学の創作を実践した詩人であるが、ロマン派の人々（とくに、ヴィクトル・ユゴー）やボードレールに大きな影響を受けつつ、詩作を始めた。しかし、やがて独自のテーマと書き方を見出し、独創的な作品を創造していった。</p> <p>この学期には、まずランボーの初期韻文詩を綿密に講読したいと思う。</p> <p>12音節で書かれたソネット形式の詩を読むのは初めてである者も多いと思われるので、丁寧に解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講読の仕方の説明 2. 最初の詩篇「感覚」を読む 3. 「感覚」の読解 4. ギリシア神話に基づき、美の女神アフロディテを讃える詩篇「太陽と肉体」を読む 5. 「太陽と肉体」の読解 6. 「太陽と肉体」の読解および解説 7. 「太陽と肉体」の読解および説明 8. 「太陽と肉体」の読解および解釈 9. 「太陽と肉体」の読解およびまとめ 10. シェイクスピアに基づく詩篇「オフフェアリア」を読む 11. 「オフフェアリア」の講読 12. 「オフフェアリア」の講読および解説 13. 「オフフェアリア」の講読および説明 14. 「オフフェアリア」の講読および解釈 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで、プリントを用意する。		実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス語芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語芸術文化講読I に続いて、この講読では、フランス近代の詩人であるランボーの作品を読むことを行なう。</p> <p>この学期でも、前学期に引き続いて、ランボーの初期韻文詩を綿密に講読したいと思う。</p> <p>12音節で書かれたソネット形式の詩を読むのは初めてである者も多いと思われるので、丁寧に解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講読の仕方の説明 2. 詩篇「谷間に眠る人」を読む 3. 「谷間に眠る人」の講読 4. 「谷間に眠る人」の講読および解説 5. 「谷間に眠る人」の講読および解釈 6. 放浪詩篇のうち、「わが放浪」を読む 7. 「わが放浪」の講読 8. 「わが放浪」の講読および解説 9. 「わが放浪」の講読および解釈 10. 「みどり亭にて」を読む 11. 「みどり亭にて」の講読 12. 「みどり亭にて」の講読および解説 13. 「みどり亭にて」の講読および説明 14. 「みどり亭にて」の講読および解釈 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで、プリントを用意する。		実際にあたって訳すこと（50%）によって評価するが、期末に自由なレポートを提出してもらうこと（50%）によっても評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Lire ensemble à une ou plusieurs voix</p> <p>Contenu :</p> <p>Nous lirons ensemble un petit texte de Michel Tournier: <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p> <p>Une fois que les pages lues ensemble auront été comprises, nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation du cours et des objectifs 2. Présentation de l'œuvre et de l'auteur 3. Lecture de la page 5 4. Lecture des pages 6 et 7 5. Lecture de la page 8 6. Présentation d'une mini bibliothèque de 4 livres 7. Lecture des pages 9 et 10 8. Lecture de la page 11 9. Lecture de la page 12 10. Lecture de la page 14 11. Lecture des pages 15 et 16 12. Lecture de la page 17 13. Lecture de la page 18 14. Exercice lecture à haute voix 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière et participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Nous continuerons la lecture de <i>L'analphabète</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Puis, nous consacrerons une partie du cours aux échanges portant sur le livre que chaque étudiant aura lu ou commencé à lire, tout seul, pendant "les grandes vacances". Pour cette deuxième partie du cours, nous travaillerons en petits groupes afin de parvenir à une meilleure compréhension du texte.</p> <p>Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont invités à suivre le cours pendant le deuxième semestre. Je conseille aux nouveaux étudiants, qui souhaiteraient suivre ce cours seulement à partir du mois de septembre, de venir me voir avant les vacances d'été afin que je leur remette le texte dont la lecture a commencé en avril.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation/Rappel des objectifs du cours et résumé des pages lues durant le premier semestre 2. Présentation de l'auteur et de son œuvre 3. Lecture de la page 20 4. Lecture des pages 21 et 22 5. Lecture de la page 23 6. Lecture des pages 24 et 25 7. Lecture de la page 26 8. Lecture de la page 28 9. Lecture des pages 29 et 30 10. Lecture des pages 31-32 + Exposé sur le livre 1 11. Lecture de la page 33 + Exposé sur le livre 2 12. Lecture de la page 34 + Exposé sur le livre 3 13. Lecture des pages 35-36 + Exposé sur le livre 4 14. Lecture des pages 38-39 + Lecture à haute voix d'une des pages préférées de <i>Pierrot ou des secrets de la nuit</i> 15. Bilan 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix. Un rapport à la fin du semestre. Un exposé à faire en groupe Présence régulière et participation active au cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Maurice Leblanc の 創作した怪盗アルセーヌ・ルパンを主人公とする中編小説を読む。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>仏和辞書についての注意:学習者用の辞書・電子辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。</p>		<p>1回目:授業の概要の説明。作者紹介。</p> <p>2:講読。Arsène Lupin en prison</p> <p>3:続きを読む。</p> <p>4:続きを読む。</p> <p>5:続きを読む。</p> <p>6:続きを読む。</p> <p>7:続きを読む。</p> <p>8:続きを読む。</p> <p>9:続きを読む。</p> <p>10:続きを読む。</p> <p>11:続きを読む。</p> <p>12:続きを読む。</p> <p>13:続きを読む。</p> <p>14:続きを読む。</p> <p>15:まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Maurice Leblanc, <i>Trois histoires énigmatiques suivi de la pièce Une nouvelle aventure d'Arsène Lupin</i> , Libro, 2012		定期試験(8割程度)に授業への参加度(2割程度)を加味する。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。</p>		<p>1回目:講読。L'Évasion d'Arsène Lupin</p> <p>2:続きを読む。</p> <p>3:続きを読む。</p> <p>4:続きを読む。</p> <p>5:続きを読む。</p> <p>6:続きを読む。</p> <p>7:続きを読む。</p> <p>8:続きを読む。</p> <p>9:続きを読む。</p> <p>10:続きを読む。</p> <p>11:続きを読む。</p> <p>12:続きを読む。</p> <p>13:続きを読む。</p> <p>14:続きを読む。</p> <p>15:まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 I フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。学期の前半では、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考える。</p> <p>フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的に否定する地方制度として誕生した現代のデパルトマンの成立の経緯とそれに託された意味を考える。次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。さらに、日本の市町村に対応する基礎的自治体としてのコミューヌの実情およびその合併と連合を通して、身近な地域の枠組みのあり方について考える。</p> <p>学期の後半では、地域における生活を支える小売り商業とその中心地の変化およびそれに伴う問題への対応について学び、地域と小売り商業のあり方について考える。</p> <p>さらに、フランスの都市を景観と住まいの視点から学び、その特徴について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 地域の枠組み 3. 海外フランス 4. プロヴァンスから近代のデパルトマンへ 5. レジオンの誕生 6. 基礎自治体としてのコミューヌ 7. コミュューヌの合併と連合 (1) 8. コミュューヌの合併と連合 (2) 9. コミュューヌの合併と連合 (3) 10. 中間のまとめ 11. 地域と商業中心 (1) 12. 地域と商業中心 (2) 13. 都市空間と住まい (1) 14. 都市空間と住まい (2) 15. まとめ <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験またはレポートの結果によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 II フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐむ問題について考える。</p> <p>講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。</p> <p>まず、現代フランス社会における若者の意識をアンケート調査結果を通して窺い、その背景について考える。</p> <p>次に、フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた『都市政策』の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。</p> <p>また、フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアションすなわち非営利団体の制度および実態について学び、その可能性について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 地域と社会：若者の意識 (1) 3. 地域と社会：若者の意識 (2) 4. 地域と社会：若者の意識 (3) 5. 地域と社会：若者の意識 (まとめ) 6. フランスの都市政策 (1) 7. フランスの都市政策 (2) 8. フランスの都市政策 (3) 9. フランスの都市政策 (4) 10. フランスの都市政策 (5) 11. フランスの都市政策 (6) 12. フランスの都市政策 (まとめ) 13. アソシアション (1) 14. アソシアション (2) 15. アソシアション (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
都市の荒廃地区と都市政策テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。		試験またはレポートの結果によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代、中世、近世の各時代を概観します。フランス史の基礎知識を修得すると同時に、フランス社会の歴史的特質について理解を深めることを目標とする授業です。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 古代1：ケルト時代 3. 古代2：ガロ＝ローマ時代 4. 古代3：古代まとめ 5. 中世1：初期中世 6. 中世2：盛期中世 7. 中世3：後期中世 8. 中世4：中世まとめ 9. 近世1：16世紀 10. 近世2：17世紀 11. 近世3：18世紀 12. 近世4：フランス革命 13. 近世5：近世まとめ 14－15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点とテスト（1回）の成績を総合して評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は、フランス19世紀史を概観します。後半は、「フランス史の諸問題」と題して、より具体的なテーマを取り上げて論じます。詳細については、最初の授業で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 19世紀（1） 3. 19世紀（2） 4. 19世紀（3） 5. 19世紀（4） 6. まとめ 7. フランス史の諸問題（1） 8. フランス史の諸問題（2） 9. フランス史の諸問題（3） 10. フランス史の諸問題（4） 11. フランス史の諸問題（5） 12. フランス史の諸問題（6） 13. フランス史の諸問題（7） 14. まとめ 15. 全体のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献は教室で指示する。		平常点とテスト（2回）の成績を総合して評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治経済 a	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界史において、政治的近代そのものの始まりをしるすフランス革命を成し遂げたことによって、フランスはいくつもの政治的原理を確立してきました。</p> <p>本講義では、こうしたフランスの政治的原理を歴史的かつ理論的に把握することを目指します。まずフランス革命以後のフランス政治史を概観します。次に、1980年代以降のフランスの政治哲学の再興の立役者であるクロード・ルフォールなどの民主主義論に触れながら、その理念を理論的に考えます。最後に現在のフランスが直面する問題を考えることにも挑戦します。</p> <p>例えば、フランスを含めた加盟国の立法の約5割がEUを起源とする状況のなかでの人民主権や市民権の位置づけ、あるいは欧州統合と分権化におけるフランスの国家や都市の位置づけの変化を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義目的と概要の説明 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. フランス政治史③ 5. ルフォールの民主主義論① 6. ルフォールの民主主義論② 7. ルフォールの民主主義論③ 8. 人民主権について① 9. 人民主権について② 10. 市民権について① 11. 市民権について② 12. 欧州統合と分権化における都市と国家の領域性① 13. 欧州統合と分権化における都市と国家の領域性② 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		平常点（20%）＋期末テスト（80%）	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治経済 b	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「栄光の三〇年」と呼ばれる第二次世界大戦後のフランスの経済成長は、戦後日本が経験した高度経済成長とほぼ時期を同じくしています。フランスの経済学者ジャン・フーラスティエが同名の著書のなかで分析したこの時期は、フランスの政治、社会、文化に大きな影響を及ぼしました。実際、この時期には、消費社会の台頭、労働の組織的管理の一般化、自動車社会化、社会的なもの（教育、医療、年金などの）の拡充とそれを保護する国家制度の確立が見られました。</p> <p>他方で、1970年、80年代以降、ブレトンウッズ体制崩壊による固定相場制から変動相場制への国際的通貨体制の変更、工場の海外移転による新しい国際分業の始まり、情報社会化とこの技術に結びついた相互文化交流の促進、金融経済の発展などによって形成された経済的グローバリゼーションは、今日にいたるまでフランスの政治、社会、文化に大きな影響を与えています。</p> <p>この講義では、こうした二つの大きな転換期の比較を通じて、フランスの政治と経済の動向を理解することを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義目的と概要の説明 2. 大衆・消費社会の台頭 3. 労働の変化①フォーディズムの導入 4. 都市の近代化①第二帝政期との比較 5. 都市の近代化② 6. メディア社会 7. 社会的なものの拡充と福祉国家 8. グローバリゼーションという転換期 9. 労働の変化②新しい国際分業 10. 情報化社会 11. 都市政策・開発の変化（二つの時期の比較） 12. 社会的なものと国家の再編成 13. 社会的不平等の克服（トマ・ピケティの不平等の経済学） 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		平常点（20%）＋期末テスト（80%）	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムや経済の特徴について学ぶことは有益だと言えるだろう。本講義は、フランスの政治経済についての基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、フランスの政治経済の変遷を歴史的に辿るとともに、現在の政治制度や経済の状況についても学ぶ。</p>		<p>第1回：イントロ 第2回：第二帝政以前の政治 第3回：第二帝政以前の経済 第4回：第三共和政からヴィシー期の政治 第5回：第三共和政からヴィシー期の経済 第6回：第四共和政期の政治 第7回：第四共和政期の経済 第8回：第五共和政の成立と政治制度 第9回：ドゴールからポンピドゥーへ 第10回：ジスカールデスタン時代の政治経済 第11回：ミッテラン時代の政治経済 第12回：シラク時代の政治経済 第13回：現在のフランスの政治経済(1) 第14回：現在のフランスの政治経済(2) 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		複数回のテスト（100％）によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 I フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではフランス現代思想、つまり第2次世界大戦以降のフランス思想の流れを解説します。ただ、皆さんはまだヨーロッパの思想、哲学がどのようなものか知らないでしょうから、春学期には哲学 (philosophie) という語を作った人でもあるプラトンの『ソクラテスの弁明』のような古典の読解からはじめて、19世紀ドイツの3人の巨大な思想家、ニーチェ、マルクス、フロイトについて概説します。そしてその後、現代フランス思想に大きな影響を及ぼしたハイデガーについて述べます。</p> <p>「チャーリー・エブド」事件でのフランス人の反応を見てもわかるように、ヨーロッパ人のものの考え方は普通の日本人の考え方と違います。しかし現代世界はヨーロッパ的思考の枠組の上に成り立っているため、ヨーロッパ (アメリカも含めて) の思考を知ることは我々にとって不可欠です。</p> <p>これまで人類は異質な「他者」と出会い、対話することで、進歩してきました。</p> <p>この講義が「他者」と出会うきっかけとなれば幸いです。</p>		<p>1) イントロダクション</p> <p>2) 哲学とは何かープラトン『ソクラテスの弁明』他</p> <p>3) 同</p> <p>4) ニーチェ (1)</p> <p>5) ニーチェ (2)</p> <p>6) ニーチェ (3)</p> <p>7) マルクス (1)</p> <p>8) マルクス (2)</p> <p>9) マルクス (3)</p> <p>10) フロイト (1)</p> <p>11) フロイト (2)</p> <p>12) フロイト (3)</p> <p>13) ハイデガー (1)</p> <p>14) ハイデガー (2)</p> <p>15) ハイデガー (3)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示する。		期末レポートと平常点、授業への積極性により評価する	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 II フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は 20 世紀後半のフランス思想についてお話しします。現代フランス思想はアメリカでは french theory と呼ばれ、特別な扱いを受けているのですが、実際、第2次世界大戦後のフランスでは多くの革新的な思想家が輩出しました。この授業ではそのなかでも特に、実存主義 existentialisme を唱えたサルトル、構造主義の代表的な思想家レヴィーストローヌやジャック・ラカン、そして「脱構築」(déconstruction) の思想家ジャック・デリダを扱います。また、20 世紀の思想、文学にもっとも深い影響を与えた文学評論家モーリス・ブランショについてもお話ししたいと思います。</p> <p>彼らの思想の主題は多岐にわたっていて、短時間ですべてをお話しすることはできませんが、テキストの抜粋などを使って、できる限り明快に説明したいと思っています。</p> <p>現代フランス思想の特徴を 1 つだけあげるとすれば、言葉、あるいは言語が、どれほどにも我々のものの考え方を規定しているかを緻密に指摘したことだと思えます。デリダは「脱構築」とは結局、plus d'une langue ということだと書いています。ひとつ以上の言語を知ること、身につけることが我々の認識をより確かなものにするということです。</p> <p>哲学と政治、文学、精神分析等との関わりがこの授業の大きな主題となるでしょう。</p>		<p>1) 戦後フランス思想の流れ (1)</p> <p>2) 同 (2)</p> <p>3) サルトル (1)</p> <p>4) サルトル (2)</p> <p>5) 構造主義 (1)</p> <p>6) 構造主義 (2)</p> <p>7) 構造主義 (3)</p> <p>8) モーリス・ブランショ (1)</p> <p>9) モーリス・ブランショ (2)</p> <p>10) モーリス・ブランショ (3)</p> <p>11) ジャック・デリダ (1)</p> <p>12) ジャック・デリダ (2)</p> <p>13) ジャック・デリダ (3)</p> <p>14) ジャック・デリダとその周辺 (4)</p> <p>15) まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際に指示する		期末レポートと平常点、授業への積極性により評価する	

13年度以降 08～12年度	フランス語圏の現代社会Ⅰ 現代フランス論Ⅰ	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済成長が国内市場の枠内に必ずしも一致しなくなった経済的グローバリゼーションの時代において、先進諸国内において経済的格差が広がり、類似した政治的諸問題が生じています。フランスにおける福祉国家の危機、ポピュリズム政党の台頭、移民排斥の風潮、EUという地域統合を巡る駆け引きといった問題はそれぞれ日本において、繰り返し語られる財政危機、ポピュリズムが語られる昨今の政治状況、ヘイト・スピーチ、TPP、に（ゆるやかにではあるが）対応しています。</p> <p>こうした諸問題はそれぞれが独立しつつも、関連し合う側面をもちます。本講義ではフランスにおけるこれらの問題のひとつひとつを概観するだけでなく、同時にそれらの関連を分析し、フランス社会を日本の社会のひとつの鏡として提示することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義目的と概要の説明 2. 福祉国家の危機について① 3. 福祉国家の危機について② 4. 福祉国家の危機について③ 5. ポピュリズムについて① 6. ポピュリズムについて② 7. ポピュリズムについて③ 8. 移民問題について① 9. 移民問題について② 10. ポピュリズムと移民問題の関連について 11. 欧州統合について① 12. 欧州統合について② 13. 欧州統合と国家との関連について 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		平常点（20%）＋期末テスト（80%）	

13年度以降 08～12年度	フランス語圏の現代社会Ⅱ 現代フランス論Ⅱ	担当者	平田 周
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2015年初頭の『シャルリー・エブド』誌襲撃事件は、フランスのみならず、世界に大きな衝撃をもたらしました。</p> <p>この事件をめぐるとりわけ日本では、その暴力行為に対する批判と同時に、同誌に以前掲載されたイスラム教についての風刺画が、偶像崇拝を禁じるイスラム教のみならず、原理主義とイスラム教徒一般を同一視するという二重の侮蔑を表しているということで、表現の自由と異なる宗教を信仰する人々への尊重との対立を論じる議論が見受けられました。</p> <p>こうした対立は和解不可能なものなのでしょうか。本講義では、事件から出発して、その背後にあるフランス社会の構成原理（表現の自由、政教分離、共和主義）や暴力の問題を考えながら、異なる文化に対して開かれようと模索するフランスの現代社会の姿を（フランスの人類学者ジャン＝ルー・アムセルらの仕事を参照しながら）理解します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義目的と概要の説明 2. 『シャルリー・エブド』誌襲撃事件について 3. 表現の自由について① 4. 表現の自由について② 5. 政教分離について① 6. 政教分離について② 7. 物理的暴力と象徴的暴力について① 8. 物理的暴力と象徴的暴力について② 9. フランスの共和主義について① 10. フランスの共和主義について②（多文化主義と比較） 11. アメリカとフランスの多文化主義の比較① 12. アメリカとフランスの多文化主義の比較② 13. フランス的な多文化主義の道 14. 講義のまとめ① 15. 講義のまとめ② <p>以上の授業計画には多少の変更もありえます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義のなかで適宜紹介します。		平常点（20%）＋期末テスト（80%）	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française.</p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>Le contenu du cours peut varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction générale 2. Données géographiques de l'océan Pacifique. 3-6. Aperçu géographique et économique de la Nouvelle-Calédonie. 7-9. Aperçu géographique et économique du Vanuatu. 10-11. Aperçu géographique et économique de Wallis et Futuna. 12-13. Aperçu géographique et économique de la Polynésie française. 14. La question des essais nucléaires en Polynésie française. 15. Conclusions du premier semestre. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films. Voir le site internet de l'Université Laval sur la francophonie.		Rapport écrit en français sur un thème choisi sur une liste.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	P.H. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : La société en Nouvelle-Calédonie</p> <p>Voir ci-dessus la présentation du cours. Après une introduction sur l'arrivée de différents peuples dans l'océan Pacifique sud, Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Bilan du 1^{er} semestre et introduction du second. 2. Le peuplement de l'océan Pacifique. 3. La découverte par les Européens du Pacifique. 4. La colonisation occidentale du Pacifique. 5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie. 6. La société kanake au moment de la découverte. 7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie. 9. Résistance et révoltes des Kanaks. 10. La Seconde Guerre mondiale. 11. Émancipation juridique des Kanaks. 12. Conflits ouverts des années 80. 13. Les accords de Matignon et de Nouméa. 14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ? 15. Conclusions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films.		Rapport écrit en français sur un thème choisi sur une liste.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスのミステリー漫画 (bande dessinée)、<i>Le Mystères de la Cinquième République</i> (Philippe Richelle, François Ravard 作) を通じて、第5共和政初期のフランスの内政問題について考えることを目的とする。</p> <p>漫画だからといって内容が容易なわけではない。絵を見るだけではストーリーは全く理解できないので、ある程度のフランス語力が必要である。授業の際には辞書は必ず持ってくること (ただし、辞書を引いても出てこない言葉もたくさんあるため、それなりに下調べが必要になるだろう)。</p>		<p>授業の進度は概ね以下の通りである。</p> <p>第1回：Fin des années 60 第2回：Paris, automne 1959, 21 h 30 第3回：Un meurtre rue de Bac 第4回：Brasserie “Le Pré Verre” 第5回：M. Serge Montoire 第6回：Rue de Babylone 第7回：Avenue de l’Opéra 第8回：Tablat, 1957 第9回：Hôtel du Nord 第10回：Chez Marie-Laure 第11回：Félicien Rolland 第12回：À Rouen 第13回：À Saint-Ouen 第14回：Rue Soufflot 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		グループワーク・発表 (50%)、提出課題 (50%) によって評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>バタイユは独特な思想家・文学者であり、現代思想の先駆者のひとりであると言ってもよいが、もともとフランス社会学の研究者であると言うべき側面をもっている。デュルケーム、モースの著作をよく読み、社会学の根本的な問題系を、自分の問題として探究している。</p> <p>まず問われるのは、「聖なるもの」というテーマであろう。すなわち、なぜ人間は「宗教的なもの」を経験し、知るようになったのだろうか、という主題をバタイユは究明しようとしている。</p> <p>この学期では、バタイユ『宗教の理論』を読みながら、「聖なるもの」というテーマについて考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講読の説明 2. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の講読 3. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の解説 4. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の説明 5. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の読解 6. バタイユのテキスト『宗教の理論』序章の解釈 7. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の講読 8. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の解説 9. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の説明 10. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の読解 11. バタイユのテキスト『宗教の理論』第一章の解釈 12. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の講読 13. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の解説 14. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の説明 15. バタイユのテキスト『宗教の理論』第二章の解釈 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらでプリントを用意する		あたって訳読すること(50%)によって評価するとともに、期末に、テキストの内容についての、自由なレポートを提出してもらうこと(50%)によっても評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	湯浅 博雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の講読を引き継いで、この学期では、バタイユ『呪われた部分』を読みながら、「贈与」というテーマについて考えたい。</p> <p>バタイユは、モースの『贈与論』を熟読しつつ、「贈与」という出来事が、慣習的なものとしては〈物を交換する経済活動〉の一部でありながら、その潜在的な可能性としては、宗教的なものの核心をなすサクリファイス（供犠）と同じような効力をもつのではないか、という見方を深めていると思われる。</p> <p>バタイユ『呪われた部分』を読みながら、こうした問いを考えて行きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講読するテキストの説明 2. バタイユのテキスト『呪われた部分』序章の解説 3. バタイユのテキスト『呪われた部分』序章の解釈 4. バタイユのテキスト『呪われた部分』第一章の解説 5. バタイユのテキスト『呪われた部分』第一章の説明 6. バタイユのテキスト『呪われた部分』第一章の解釈 7. バタイユのテキスト『呪われた部分』第二章の解説 8. バタイユのテキスト『呪われた部分』第二章の説明 9. バタイユのテキスト『呪われた部分』第二章の解釈 10. バタイユのテキスト『呪われた部分』第三章の解説 11. バタイユのテキスト『呪われた部分』第三章の説明 12. バタイユのテキスト『呪われた部分』第三章の理解 13. バタイユのテキスト『呪われた部分』第三章の解釈 14. バタイユのテキスト『呪われた部分』の総括 15. バタイユのテキスト『呪われた部分』の包括的まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらでプリントを用意する		あたって訳読すること(50%)によって評価するとともに、期末に、テキストの内容についての、自由なレポートを提出してもらうこと(50%)によっても評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。前期は古代・中世から3章を選んで読みます。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目標とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2-5. « Là où Attila passe, l'herbe ne repousse pas ! » 6-9. Pourquoi le trône de France a-t-il été interdit aux femmes ? 10-13. Les « fillettes » de Louis XI 14-15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点とテスト（1回）の成績を総合して評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランスの文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料を読む予定です。後期はフランス革命史から3章を選んで読みます。フランス語の読解力を向上させるとともに、フランス史の理解を深めることを目標とする授業です。		1. 授業ガイダンス 2-5. Comment le maître de poste a-t-il reconnu le roi ? 6-9. Un révolutionnaire poignardé dans sa baignoire ! 10-13. Le fameux mot de Cambronne 14-15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点とテスト（1回）の成績を総合して評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期は世界遺産制度および遺産事例2件程度を取り上げる。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメントや補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 世界遺産制度 (1) 3. 世界遺産制度 (2) 4. 世界遺産制度 (3) 5. 世界遺産制度 (まとめ) 6. パリのセーヌ河岸 (1) 7. パリのセーヌ河岸 (2) 8. パリのセーヌ河岸 (3) 9. パリのセーヌ河岸 (4) 10. パリのセーヌ河岸 (まとめ) 11. ミディ運河 (1) 12. ミディ運河 (2) 13. ミディ運河 (3) 14. ミディ運河 (4) 15. ミディ運河 (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前学期および前年度とは異なるものを取り上げる</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. モン・サン・ミシェルとその湾 (1) 3. モン・サン・ミシェルとその湾 (2) 4. モン・サン・ミシェルとその湾 (3) 5. モン・サン・ミシェルとその湾 (4) 6. モン・サン・ミシェルとその湾 (まとめ) 7. フォントネーのシトー会修道院 (1) 8. フォントネーのシトー会修道院 (2) 9. フォントネーのシトー会修道院 (3) 10. フォントネーのシトー会修道院 (4) 11. フォントネーのシトー会修道院 (まとめ) 12. ベルギーとフランスの鐘楼群 (1) 13. ベルギーとフランスの鐘楼群 (2) 14. ベルギーとフランスの鐘楼群 (3) 15. ベルギーとフランスの鐘楼群 (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果および授業中の発表を考慮して評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>声に出して読むフランス語</p> <p>フランス語で書かれたテキスト（文章など）を、聞いただけでわかるように読むことを目指します。授業でも、実際に繰り返し声にだして読んでいただきます。</p> <p>読む本人がわかっていなければ、聞いているひとがわかることは非常に難しいでしょう。</p> <p>書かれたテキストの意味をとらえ、ひとに伝える力を、実践をとおして身につけていきます。</p> <p>今年度は、1867のパリ万国博覧会に向けて出版された『パリ・ガイド』<i>Paris Guide par les principaux auteurs et artistes de la France</i> をとりあげます。およそ150年前の第二帝政期、ナポレオン三世 Napoléon III のもとオスマン Haussmann によりパリの大改造がおこなわれたことは記憶していると思います。同時代の著名な文人・知識人の文章に触れ、現代のパリ、あるいは都市というものについて考えるきっかけになればと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Victor HUGO による序文 (1) 3. Victor HUGO による序文 (2) 4. Victor HUGO による序文 (3) 5. Victor HUGO による序文 (4) 6. George Sand (1) 7. George Sand (2) 8. George Sand (3) 9. Les Boulevards (1) 10. Les Boulevards (2) 11. Les Boulevards (3) 12. Les Halles (1) 13. Les Halles (2) 14. Les Halles (3) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは担当教員が用意します。</p> <p>参考文献の主要なものはガイダンスで、そのほかのものは各回の授業で紹介します。</p>		<p>毎回の授業をとおしておこないます。(授業に出ない場合の成績評価は3年生はFまたはX、4年生はFGまたはXになります。) ガイダンスのときに補足説明します。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Les Jardins (1) 3. Les Jardins (2) 4. Les Jardins (3) 5. Les Chemins de fer (1) 6. Les Chemins de fer (2) 7. Les Chemins de fer (3) 8. L'Exposition (1) 9. L'Exposition (2) 10. L'Exposition (3) 11. Victor HUGO による序文 (5) 12. Victor HUGO による序文 (6) 13. Victor HUGO による序文 (7) 14. Victor HUGO による序文 (8) 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランスの文化・社会講読 a	担当者	津崎 良典
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語力を維持し、また向上させるためには、つねにフランス語に触れていることが重要だ。その一つの手段として新聞記事を少量でもよいので毎日読むことを勧めたい。新聞記事は気軽に入手することができ、また、小説などに比べればそれほど長くないので、短い時間で読み切ることができる。論理的に書かれているから内容を追うことも容易だ。フランス語の新聞記事を毎日読む習慣を身につけよう。そうすればフランス語力の維持と向上を確実なものにすることができる。本講義の目的は、この習慣を身につけることだ。外国語としてのフランス語のレベルに関するヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の C1 から C2 程度の実力をもった学生のために、フランスの代表的な日刊紙である『ル・モンド』に掲載されたフランス現代社会に関する記事を主な媒体として、①当該記事の日本語訳の作成、②記事に関するさまざまな種類の練習問題 (語彙強化、既習の文法事項の復習と未習の文法事項の習得、まとめや言い換えなどの作文など) を行うことを講義概要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明、新聞記事①の配布 2. 新聞記事①の日本語訳 3. 新聞記事①の練習問題、新聞記事②の配布 4. 新聞記事②の日本語訳 5. 新聞記事②の練習問題、新聞記事③の配布 6. 新聞記事③の日本語訳 7. 新聞記事③の練習問題、新聞記事④の配布 8. 新聞記事④の日本語訳 9. 新聞記事④の練習問題、新聞記事⑤の配布 10. 新聞記事⑤の日本語訳 11. 新聞記事⑤の練習問題、新聞記事⑥の配布 12. 新聞記事⑥の日本語訳 13. 新聞記事⑥の練習問題、新聞記事⑦の配布 14. 新聞記事⑦の日本語訳 15. 新聞記事⑦の練習問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教員が適宜用意して配布します。辞書と文法書は必携。出来ることなら紙媒体の辞書を持参してください。</p>		<p>毎回宿題として課される日本語訳の作成 (30%) と授業で扱った練習問題に関して翌週にだされる小テストの結果 (70%)</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランスの文化・社会講読 b	担当者	津崎 良典
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語力を維持し、また向上させるためには、つねにフランス語に触れていることが重要だ。その一つの手段として新聞記事を少量でもよいので毎日読むことを勧めたい。新聞記事は気軽に入手することができ、また、小説などに比べればそれほど長くないので、短い時間で読み切ることができる。論理的に書かれているから内容を追うことも容易だ。フランス語の新聞記事を毎日読む習慣を身につけよう。そうすればフランス語力の維持と向上を確実なものにすることができる。本講義の目的は、この習慣を身につけることだ。外国語としてのフランス語のレベルに関するヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) の C1 から C2 程度の実力をもった学生のために、フランスの代表的な日刊紙である『ル・モンド』に掲載されたフランス現代社会に関する記事を主な媒体に、①当該記事の日本語訳の作成、②記事に関するさまざまな種類の練習問題 (語彙強化、既習の文法事項の復習と未習の文法事項の習得、まとめや言い換えなどの作文など) を行うことを講義概要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明、新聞記事①の配布 2. 新聞記事①の日本語訳 3. 新聞記事①の練習問題、新聞記事②の配布 4. 新聞記事②の日本語訳 5. 新聞記事②の練習問題、新聞記事③の配布 6. 新聞記事③の日本語訳 7. 新聞記事③の練習問題、新聞記事④の配布 8. 新聞記事④の日本語訳 9. 新聞記事④の練習問題、新聞記事⑤の配布 10. 新聞記事⑤の日本語訳 11. 新聞記事⑤の練習問題、新聞記事⑥の配布 12. 新聞記事⑥の日本語訳 13. 新聞記事⑥の練習問題、新聞記事⑦の配布 14. 新聞記事⑦の日本語訳 15. 新聞記事⑦の練習問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教員が適宜用意して配布します。辞書と文法書は必携。出来ることなら紙媒体の辞書を持参してください。</p>		<p>毎回宿題として課される日本語訳の作成 (30%) と授業で扱った練習問題に関して翌週にだされる小テストの結果 (70%)</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今、「格差社会」が問題になっています。資産家はますます資産を増やし、貧乏人はますます貧乏になるというのが、現代資本主義の傾向です。ジャン-ジャック・ルソー Jean-Jacques Rousseau (1712-1778)はそうしたことを非常に早くから自覚し、自分の問題としていました。昨年は同じルソーの「社会契約論」の第1巻を読みましたが、今年はその最初の重要な著作である「人間不平等起源論 Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes」(1755)を読みます。</p> <p>この本は序文と第1部、第2部の三つの部分からなっていますが、春学期は第1部を読みます。</p> <p>ルソーのテキストは逆説的な表現が多く、最初は戸惑われるかもしれませんが、そこには多くの場合、深い洞察がひそんでいます。それをフランス語を通して直接読み取れるようになることがこの講読の目的です。</p>		<p>1) 前置き (ルソーの生涯など)</p> <p>2) 前置き (「不平等起源論」の位置付けなど)</p> <p>3) p.69-71</p> <p>4) p.72-74</p> <p>5) p.75-77</p> <p>6) p.78-80</p> <p>7) p.81-83</p> <p>8) p.84-86</p> <p>9) p.87-89</p> <p>10) p.90-92</p> <p>11) p.93-95</p> <p>12) p.96-98</p> <p>13) p.99-101</p> <p>14) p.102-104</p> <p>15) p.105-107</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, <i>Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes</i> , GF Flammarion		学期末レポートと平常点	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今、「格差社会」が問題になっています。資産家はますます資産を増やし、貧乏人はますます貧乏になるというのが、現代資本主義の傾向です。ジャン-ジャック・ルソー Jean-Jacques Rousseau (1712-1778)はそうしたことを非常に早くから自覚し、自分の問題としていました。昨年は同じルソーの「社会契約論」の第1巻を読みましたが、今年はその最初の重要な著作である「人間不平等起源論 Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes」(1755)を読みます。</p> <p>この本は序文と第1部、第2部の三つの部分からなっていますが、秋学期は第2部を読みます。</p> <p>ルソーのテキストは逆説的な表現が多く、最初は戸惑われるかもしれませんが、多くの場合そこには深い洞察がひそんでいます。それをフランス語を通して直接読み取れるようになることがこの講読の目的です。</p>		<p>1) 前置き (ルソーとその時代)</p> <p>2) 「不平等起源論」から「社会契約論」と「エミール」へ</p> <p>3) p.109-111</p> <p>4) p.112-115</p> <p>5) p.116-119</p> <p>6) p.120-122</p> <p>7) p.123-126</p> <p>8) p.127-129</p> <p>9) p.130-132</p> <p>10) p.133-135</p> <p>11) p.136-138</p> <p>12) p.139-141</p> <p>13) p.142-144</p> <p>14) p.145-147</p> <p>15) p.148 及びまとめ、ディスカッション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Jacques Rousseau, <i>Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes</i> , GF Flammarion		学期末レポートと平常点	

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追従を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要：</p> <p>本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） 5. JALとANAの登場と成長 6. LCC（低コスト航空会社） 7. アライアンス 8. 航空産業の課題について（ディスカッション） 9. 航空政策とJALの破綻と復活 10. オープンスカイと規制緩和 11. 航空安全 12. 航空機製造ビジネス 13. 航空産業の特性と航空運賃 14. 空港、および国際航空法 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくこと。</p>		<p>ディスカッションなど講義参加度：50%</p> <p>最終試験：50%</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について理解を深めることを目指す。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は食の文化を通じて「グローバリゼーション」について考えることを目的とします。</p> <p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめと試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）。	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」 2 メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3 メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシー 5 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6 近代とメディア③：「日刊新聞」以前、以後 7 近代とメディア④：ニューヨークタイムズの時代 8 近代日本のトランスナショナル・メディア 9 20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10 20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11 20世紀とメディア③：戦争報道と”Media War” 12 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディア とわたしたち 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本、その1） 授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。 Australia and New Zealand Army Corpsが、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、100周年にあたる今年は、愛国心の過度の表出が懸念されている。 http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/ その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。この授業の目的は、沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働などを含め、1931年から45年までの戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていくことにある。 初回（何らかの授業で参加できなかった人は2回目）の授業に、上記の授業目的について各自が考えるところを、500～1000字程度に記し、持参すること（初回レポートとして評価の対象になる）。 土日などを利用して、「遊就館」や「女たちの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学することが、履修の前提条件となる。</p>		<p>4/9 1. イントロダクション 4/16 2. ANZAC 4/23 3. 学外見学（授業振替） 4/30 4. ANZAC(ディスカッション) 5/7 5. 『月光の夏』 5/14 6. 『月光の夏』。 5/21 7. 「慰安婦」(1) 5/28 8. 「慰安婦」(2) 6/6 9. 「沖縄・集団死」(1) 6/13 10. 「沖縄・集団死」(2) 6/20 11. 「強制連行・労働」(1) 6/27 12. 「強制連行・労働」(2) 7/2 13. 『ゆきゆきて神軍』 7/9 14. 靖国神社みたままつり 7/16 15. まとめのディスカッション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>新書版の本を何冊か読んでもらう予定。Norma Field, <u>In the Realm of a Dying Emperor</u> (1993)からは抜粋を使用するが、日本語で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事など。詳しくは初回の授業で説明する。</p>		<p>学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポートを評価の対象とする。また、十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。</p>	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。</p> <p>グローバルとローカルなものに対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>(参考文献) W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か?』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発 NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>(参考文献) 上欄を参照。</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「樂園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. ダーク・ツーリズムの現状—広島および西アフリカの事例から 15. まとめ <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義では、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. (ディスカッション) テーマ：イベント (各種イベント、大学祭等)の意義と役割 8. 古代オリンピック 9. オリンピックの歴史・意義・役割について 10. ビジネスの視点からのオリンピック① 11. ビジネスの視点からのオリンピック② 12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 13. " ② 14. " ③ 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		<ul style="list-style-type: none"> ・受講姿勢、小テスト、講義参加度：50% ・プレゼンテーションとレポート：50% 	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。戦後の我が国経済は主にモノづくり産業が牽引してきており、ツーリズム政策は必ずしも充分ではなかった。このような経緯を踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 世界の動き、日本の動き 3. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（観光立国など） 4. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など） 5. ツーリズム政策の変遷（鎖国から現代まで） 6. ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等） 7. ディスカッション① 8. 世界のツーリズム政策①（シンガポール） 9. ディスカッション② 10. 世界のツーリズム政策②（スイス） 11. 世界のツーリズム政策③（フランス） 12. 多様なツーリズム政策（世界遺産、イスラム世界の拡大、ニューツーリズム） 13. 多様なツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、小テスト、講義参加度：50% 最終試験：50%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ、ツーリズムと文化の動的な関係について考察する。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイドンス 2、観光みやげとモノの移動／消費 3、近代における観光みやげ 4、「民芸品」へのまなざし 5、観光みやげと真正性 6、観光みやげのギフト性 7、観光みやげの儀礼的倒錯性 8、観光みやげと「ものがたり」 9、民芸品としてのアジア雑貨 10、ベトナム雑貨がつくるルート 11、ベトナム雑貨観光とその生産地 12、旅するマトリョーシカ① 13、旅するマトリョーシカ② 14、おみやげが媒介する文化 15、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）。</p>	

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （写真とツーリズムの交流文化史））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（写真とツーリズムの交流文化史）</p> <p>旅するとき、なぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするために旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」とは、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラースン、2011=2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNS フォト」など、トランスナショナルな社会現象を考えます。</p> <p>講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイメージネーションの諸問題を考えることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：観光写真と写真観光 2 写真の歴史①：遠近法と写真術 3 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム 8 「撮る」の政治学①：バルト、ソントグ、多木の場合 9 「撮る」の政治学②：表現としての写真 10 「撮る」の政治学③：「動く画」の発明 11 「撮る」の政治学④：映画の「まなざし」 12 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13 写真とツーリズム②：「自撮り」を考える 14 写真とツーリズム③：SNS と写真 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業のビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動き、将来について学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動き 10. 航空産業の将来 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、講義参加度：50% プレゼンテーションとレポート：50%	

13年度以降 09～12年度	交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論)) 交流文化論(ツーリズム・メディア論)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光(ツーリズム)」という形での移動(モビリティ)を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ(疑似イベント)には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり(観光立国)」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を造り替えたりします。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合(アーティキュレーション)から生じる「観光的現実」の特性と現在形を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2 グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3 グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「結婚」 4 グアムから考える③：「日本人の楽園」と米軍基地 5 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6 ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7 ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8 ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10 メディア・ツーリズム①：観光地のメディア戦略 11 メディア・ツーリズム②：映画観光の功罪 12 メディア・ツーリズム③：「日本」の観光化 13 理論編③：複製技術時代の観光 14 理論編④：メディア・ツーリズムの現在形 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>地域が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々間のコミュニケーションの総和」として捉えます。</p> <p>取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章） 4. 生ゴミリサイクルにみる町づくりの制度構築：山形の事例（3章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫の事例（4章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として（10章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジルの事例（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根の事例（7章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援の事例（11章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 5. 環境主義の商品化—エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光—北米イヌイトの事例 10. 先住民と開発—開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多角的・学際的アプローチー歴史・現状・展望 1）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 水本義彦 講座の目的・概要 2 秋野有紀 パブリック・ディプロマシー 3 秋野有紀 ドイツの対外文化政策 4 佐藤唯行 グローバル化するユダヤ・ロビー：第一次オバマ政権発足 100 日目の総括 5 小林哲也 グローバリゼーション賛成・反対：成長と格差の世界経済を読み解く 6 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：対内直接投資と国家安全保障の問題 7 廣田愛理 グローバリゼーションとフランス 8 矢羽々崇 グローバル社会におけるベートーヴェンの『第九』：自由と民主化のメッセージ 9 鈴木英一 記号論理学の時間表示と英語の「時制の一致」 10 湯浅博雄 グローバリゼーションと言葉・翻訳 11 永野隆行 イギリス帝国とグローバリゼーション 12 岡村りら 環境問題に対する取り組み 13 毛受敏浩 人口減少下の日本の選択：移民受け入れは是非か？ 14 上田浩二 グローバル化の中の日独関係 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多角的・学際的アプローチー歴史・現状・展望 2）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 佐野康子 グローバリゼーションの加速化：アフリカにおける適者生存の原則 2 菊池英博 グローバリゼーションとグローバリズムの違い：日本で進む新自由主義革命 3 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：グローバル・インバランスの問題 4 片山亜紀 国際社会と妊娠中絶 5 E. 本橋 Strangers Among Us: Myths, Facts & Realities of Immigration Around The World And In Japan 6 上野直子 カリブ：西欧近代史の「背中の臍」 7 上野直子 移動するカリブ 8 西田恒夫 グローバリゼーションと国際機関の役割 9 工藤達也 宗教としての資本主義 10 山本淳 ドイツ・ポップ/ロックの変遷：言語・時代・社会のはざままで 11 金井満 世界のなかのドイツ車 12 高橋雄一郎 グローバル化と人の移動：巨大な墓場となる地中海 13 東郷公德 地球化時代の多文化主義 14 鈴木隆 都市の商業形態と生活中心地の変化 15 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史1）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. ヨーロッパの古代の音楽 4. ヨーロッパの中世の音楽（1） 5. ヨーロッパの中世の音楽（2） 6. ルネサンス音楽（1） 7. ルネサンス音楽（2） 8. ルネサンス音楽（3） 9. バロック音楽（1） 10. バロック音楽（2） 11. バロック音楽（3） 12. バロック音楽（4） 13. バロック音楽（5） 14. まとめ 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史2）	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を知っていることを前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 古典派の音楽（1） 3. 古典派の音楽（2） 4. 古典派の音楽（3） 5. 古典派の音楽（4） 6. 19世紀の音楽（1） 7. 19世紀の音楽（2） 8. 19世紀の音楽（3） 9. 19世紀の音楽（4） 10. 19世紀の音楽（5） 11. クリスマスの音楽 12. 20世紀の音楽（1） 13. 20世紀の音楽（2） 14. まとめ 15. 授業内試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. 情報のデジタル化 3. オペレーティングシステム 4. プログラミング言語入門 5. データ構造入門 6. アルゴリズム入門 7. ハードウェアとは 8. 情報検索と言語処理 9. 形態素解析と構文解析 10. 自然言語処理の応用 11. 質問応答システム 12. 対話システムと言語資源 13. 総合演習 1 14. 総合演習 2 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示する参考文献を使用します。		レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理1)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 Ia では、「言語情報とは何か?」、「コーパス (=言語データ)とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題 (Research question(s)) をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書 (下記参照) に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p> <p>従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p> <p>言語情報 Ia と Ib では、Iaの方が言語学的内容です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 3. 第3章「さまざまなコーパス」 4. 第5章「コーパス検索の技術」 第6章「コーパス頻度の処理」 5. 第7章「コーパスと語彙」(1) 6. 第7章「コーパスと語彙」(2) 7. 第8章「コーパスと語法」(1) 8. 第8章「コーパスと語法」(2) 9. 第9章「コーパスと文法」(1) 10. 第9章「コーパスと文法」(2) 11. プレゼンテーション準備 (1): RQを検討 12. プレゼンテーション準備 (2): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (3): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用テキスト</p> <p>『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (言語情報処理2)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 Ib では、「日本人英語学習者のコーパス (=言語データ)」を扱います。究極的な研究課題 (Research question) は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する (あるいはしない) 文法項目、誤り (error) などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこなってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、<u>英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人</u>に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集 (1) 5. 学習者データの収集 (2) 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11. 学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備 (1): データ分析 13. プレゼンテーション準備 (2): 資料作成 14. 発表 (1) 15. 発表 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用せず</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過等) で総合評価する。</p>	

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報の影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣 池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣</p>		<p>中間レポート30%，期末試験70%で評価する。 なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動、対人行動としてのコミュニケーション 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル 13.健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣 池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣</p>		<p>中間レポート30%，期末試験70%で評価する。 なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

シラバス フランス語学科

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	